中国語に見られる入破音の研究

(A STUDY ON IMPLOSIVE IN CHINESE)

0.はじめに

1.入破音の表記と記述

2.入破音の体系と種類

3.呉方言の入破音

4.海南方言の入破音

5.厦門方言の入破音

6.おわりに

付録一:参考訳文

Ⅰ.『中国方言当中爆發音的種類』,趙元任1935

Ⅱ.『海南島海口方言中的吸気音』,梁猷剛1958

Ⅲ.『老派金山方言中的縮気塞音』,游汝傑1984

Ⅳ.『浙南和上海方言中的緊喉濁塞音声母?b,?d初探』,鄭張尚芳1988

付録二:中国語入破音をみる歴史地図

はじめに

現代中国語に見られる入破音は中国語の北方方言にはなく，南方方言にしか見られない特殊な音声現象である。

中国語南方方言の閩方言圏,呉方言圏に入破音の存在が認められ,近年，その研究が注目されている。閩方言圏,呉方言圏は地理的には歴史上,紀元前17世紀の商の時代に越ができ,紀元前11世紀の西商の時代に呉ができ,紀元前7世紀の春秋戦国時代から秦の時代まで呉越,閩越,駱越,東甌,西甌のあった地であり,いわゆる古代の百越,駱甌の地であった(付録二をご参照)。今の越南(ベトナム)語圏,侗台語圏は古代では駱越,西甌の地であり,その言葉に周知の入破音を特徴としているように,かつての呉越,閩越,東甌の地だった閩方言圏,呉方言圏に入破音が存在するのは何の不思議もない訳である。

中国語に見られる入破音の研究
(A STUDY ON IMPLOSIVE IN CHINESE)

中国語に見られる入破音は何千年もの漢民族と周辺民族との文化の交流,融合の証拠の一つであると言えるであろう。

本稿は,歴史的な研究を他の機会に譲り,先行研究の成果をふまえて,現代中国語に見られる入破音の研究を概観し,入破音の表記と記述を確認し,相違点を究明して,中国語の入破音の特徴を明らかにしたい。

1.入破音の表記と記述

入破音implosiveはアフリカ諸言語及び東南アジア諸言語,中国では海南島方言に見られるというのは一般的な見方であったが,近年来の研究が進み,後述のように,中国語の呉方言,厦門方言にも入破音が見られるとの研究成果が上がっている。本稿の付録としての四本の参考訳文:Ⅰ.『中国方言当中爆發音的種類』(趙元任1935),Ⅱ.『海南島海口方言中的吸気音』(梁猷剛1958),Ⅲ.『老派金山方言中的縮気塞音』(游汝傑1984),Ⅳ.『浙南和上海方言中的緊喉濁塞音声母?b,?d初探』(鄭張尚芳1988)はその代表的な研究論文であり,中国語の入破音の研究成果がよくわかる論著である。

1.1.入破音の表記

まず,入破音implosiveの表記については国際音声字母International Phonetic Alphabet(1951年現在Revised to 1951)を見る限りでは,表の中には載せてはいないが,その他の音として,「有声の入破子音は:ɓ,ɗなど」と表記している(ベルティル・マルンベリ著,大橋保夫1976訳,『音声学』巻末をご参照)。IPA(1979年現在Revised to 1979)を見ると,表の中に入破音の項目があり,ɓ,ɗ,ɠの3個の有声の入破音が表記されている(服部四郎1984,『音声学』巻末をご参照)。そして,IPA(1989年現在Revised to 1989)を見れば,入破音の項目には,ɓ/ɓ,ʈ/ɗ,ɕ/ʃ,ƙ/ɠ,ʠ/ɢのように無声と有声のペアとなっている入破音がそれぞれ合計10個表記してある(玉村文郎編1992,『日本語を学ぶ人のために』p128をご参照)。このIPAの表記の変りを見る限りでも,近年来の入破音についての研究が盛んに行われてきたことを物語っている。

1.2.入破音の記述

入破音の記述についてはまず,ベルティル・マルンベリの『音声学』(大橋保夫1976年訳,p39)では,「調音が舌打音に似たいわゆる入破音(*声門を閉鎖したまま喉頭全体を下げ,そのとき生ずる気流によって発せられる音。アフリカの諸言語に広く用いられる。巻末の音声字母表の記号のほか,'b,'dなどと表記することもある。)」との記述がある。そして,服部四郎1984の『音声学』では,「[b]の構えをしながら頬をふくらませないで声帯を振動させようとすると,喉頭全体が下る運動をするのが認められる。この場合には,喉頭の下行運動によって生ずる気流によって声帯が振動するという

ような結果となる。このような方法によって発せられる「有声入破音」をPikeは[bˀ][dˀ][gˀ]で表している(p116)。」との記述がある。そして,同書p119の注では,「国際音声字母の[ɓ][ɗ][ɠ]などで表すSindhi語およびBantu語のvoiced implosivesはこの音であろう」。更に,同書p168の補説では,「有声入破音の調音の記述は,Pikeのそれとしては誤っている。……次のように改める。この[b]の閉鎖をそのままにしておいて,口むろに溜まった空気を逆に肺の方へ吸いこむ際に生ずる気流で声帯を振動させることができる。このような逆の気流で生ずる不完全な声を持続部にともなう破裂音を Pike は voiced implosives《有声入破音》と呼び[bˀ],[dˀ],[gˀ]で表している。ただし,私が116頁に記述したような音も存在する……」。

城生佰太郎1988の『音声学 新装増訂版』(p78)では,入破音について次のように記述している。

「声門を閉鎖しておいてから放出音とは逆に,口むろに溜まっている空気を呑み込むようにして調音する。ただし,放出音とは異なり,完全には閉鎖されないのが普通である。従って,これらは一般に有声音となる。なお,母音が後続すると放出音と同様に声門が閉じた状態から急激に開くため,声門破裂音を伴って苦しそうな声立てとなる。更にP. Ladefoged(1971)は,入破音と閉鎖音の違いを種類の別よりは寧ろ程度の差と見た方が良いとしている。即ち,同書によれば閉鎖音よりも沢山の空気を呑み込んだ上で,更にすばやく調音をすれば入破音に近いものができるという。」

以上の記述では入破音の調音の記述について次のような共通点が見られる。

1) 声門を閉鎖する。

2) 調音の際,喉頭下行が認められる。

3) 口むろに溜まっている空気を呑み込む。

4) 3)で生ずる逆気流で声帯を振動させる。

ただし,服部では,Pikeのいう入破音[bˀ][dˀ][gˀ]と海南島の入破音[ɓ][ɗ]とが意識的に区別されている。また,補説では「空気を逆に肺の方へ吸い込む」との記述があるが,ここでは「吸い込む」か,「呑み込む」かでは入破音の記述にとっては大事な所である。なぜならば,「吸い込む」というのは「吸着音」や「吸気音」の記述に使用する表現だからである。そして,城生1988の記述の中に引用されたP. Ladefoged(1971)の記述では,入破音と閉鎖音の相違点を有声の度合だけしか見ていない点は,入破音と閉鎖音の調音方法の根本的な違いを明らかにしていない。

1.3. 中国語の入破音の表記

中国語に見られる入破音の表記については,趙元任1935では,入破音implosiveとは明言しないながらも,上海や浙江の呉語に見られる入破音については,弱い破裂の入破音を'b,'dと表記し,強い破裂の入破音を?b,?dと表記している(趙元任1935は参考訳文Iをご参照)。弱い入破音の表記'b,'dはベルティル・マルンベリ1976と共通しているのがわかる。梁猷剛1958では海南島海口方言の入

破音をɓ,ɗとして明確に表記している(梁猷剛1958は参考訳文Ⅱをご参照)。喉頭の閉鎖を強調するために,梁猷剛1964は海南方言の入破音を?ɓ,?ɗと表記している。游汝傑1984では,上海金山県の入破音を?b,?dと表記している(游汝傑1984は参考訳文Ⅲをご参照)が,鄭張尚芳1988も同じように,浙江の入破音を?b,?dと表記している(鄭張尚芳1988は参考訳文Ⅳをご参照)。入破音の表記でPikeのb?,d?と,現在中国の研究者で一般に使っている?b,?dとは喉頭閉鎖の?の位置の違いであるが,中国の研究者は明らかに中国語の入破音の喉頭閉鎖を強調する意図が強いから,?b,?dの表記を使っているのである。筆者はIPAの入破音の表記ɓ,ɗ,ʄなどに従っている。

そして,IPAのimplosiveは日本語では「入破音」と表記しているが,中国語ではどう表記しているかを見てみると,趙元任1935では中国語方言の「爆発音bàofāyīn」の第9類,第10類として表記している。梁猷剛1958では「吸気音xīqìyīn」と表記しているが,梁猷剛1964では「喉塞音hóusāiyīn」と改めた。雲惟利1987では,海南島の入破音は吸気音とは少し違うとしながらも,「濁吸気音zhuó xīqìyīn」と表記している(雲惟利1987,『海南方言』p8,p169をご参照)。游汝傑1984では上海金山県の入破音?b,?dは国際音声字母のɓ,ɗに相当すると指摘し,「縮気塞音suōqìsāiyīn」と表記している。鄭張尚芳1995では「先喉塞濁音xiānhóusāizhuóyīn」との表記をしているが,鄭張尚芳1988では浙江の入破音を「緊喉濁塞音jǐnhóuzhuósāiyīn」と表記している。中国語の表記については筆者は鄭張尚芳1988の表記に賛同である。中国語の入破音の表記を表にまとめると次のようになる。

中国語入破音の表記法

著者＼名称	記述の方言	implosive	両唇音	歯茎音	軟口蓋音
趙元任1935	呉方言	爆發音　bàofāyīn	ʼb ?b	ʼd ?d	
梁猷剛1958	海南方言	吸気音　xīqìyīn	ɓ	ɗ	
梁猷剛1964	海南方言	喉塞音　hóusāiyīn	?ɓ	?ɗ	
游汝傑1984	上海金山方言	縮気塞音suōqìsāiyīn	?b	?d	
雲惟利1987	海南方言	濁吸気音zhuó xīqìyīn	ɓ	ɗ	
鄭張尚芳1988	浙江南部方言	緊喉濁塞音jǐnhóuzhuósāiyīn	?b	?d	
鄭張尚芳1995	浙西南方言	先喉塞濁音xiānhóusāizhuóyīn	?b	?d	
朱新建1992	厦門方言	入破音	ɓ/m	ɗ/n	ʄ/ŋ
朱新建1995	海南方言	入破音	ɓ	ɗ	ʄ

1.4. 中国語の入破音の記述

中国語に見られる入破音の記述についてはまず趙元任1935では次のような記述がある。

第九類は有声音の[b]であると同時に声門が少し緊縮する働きが見られる。ここで仮に['b]で表記する。(中略)

第十類は第九類とそう違わず,ただ喉頭の緊縮はもっと強く,有声の度合いも強い。だから,もし第九類は弱い音とすれば,第十類はそれに相当する強い音である。この類の音は聴覚上も発音上も一つの特徴があることがわかる。すなわち,破裂するときに声門のところで緊縮するため,出てくる息が少なすぎて,大きく開いたため容量の増えた口腔に息が満たさないので,結局息が逆に外から口腔へとすこし吸い込まれて,ある種の高音の音色が発生することになる。

趙元任1935の記述を次のようにまとめられる。

1)閉鎖を形成する

2)破裂する前に声門のところで緊縮する

3)息が外から口腔へと吸い込まれる

梁猷剛1958では,海南島海口方言のɓ,ɗについては次のように記述している。

海口の[ɓ]は吸気の,喉頭閉鎖を伴う有声の両唇破裂音である。閉鎖を形成する際に,両唇がしっかりと閉じると同時に,声門もしっかりと閉じる。閉鎖を破るとき,両唇が破裂して気流を吸入する。この吸入された気流は閉鎖を破るときに両唇より口腔に進入し,両唇吸気の破裂音を調音できてからは深入りせず,そして両唇の閉鎖が破り,口腔より吸気すると同時に,しっかりと閉じた声門も突然裂開し,一筋の小さな透き間を残して,気管からの呼気の気流で声帯を衝撃させて濁音になる。

海口の[ɗ]は吸気の,喉頭閉鎖を伴う有声の舌尖歯茎破裂音である。閉鎖を形成する際,舌尖が上の歯茎につけると同時に,声門もしっかりと閉じる。閉鎖を破るとき,舌尖が急に上の歯茎から離れ,気流を吸入する。この吸入された気流は閉鎖を破るときに舌尖と歯茎の間より口腔に進入し,舌尖歯茎の吸気の破裂音を調音できてからは深入りせず,そして舌尖歯茎が閉鎖を破り,口腔より吸気すると同時に,しっかりと閉じた声門も突然裂開し,一筋の小さな透き間を残して,気管からの呼気の気流で声帯を衝撃させて濁音になる。

梁猷剛1958の記述をまとめると次のようになる。

1)閉鎖を形成する

2)声門をしっかり閉じる

3)吸気すると同時に声門裂開する

4)気管からの呼気で声帯を衝撃させて濁音になる

游汝傑1984では上海の金山県のʔb,ʔdについて,次のように記述している。

ʔb, ʔdの発音の原理は次のとおりである。閉鎖を形成する段階では喉頭が閉鎖し，両唇が閉鎖を形成するか舌尖と上の前歯が閉鎖を形成し，喉頭が下降する。喉頭の下降により，閉鎖が持続する間，口腔の空間が増大し，空気が薄くなり，気圧が下がる。閉鎖を破る際に声門が緊縮するため，肺部から流れ出る気流が少なすぎて，喉頭下降により増大した口腔の空間を充満することができないために，自然に口腔外の気圧のやや高い気流を吸入し，声帯を振動して濁音を発する。

游汝傑1984の記述をまとめると次のようになる。

1)閉鎖を形成する

2)喉頭が下降する

3)声門が緊縮する

4)口腔外の気流を吸入して声帯を振動する

筆者は厦門語の入破音について次のように記述している(朱新建1996)。

厦門語の入破音は，声門を完全に閉鎖したまま，喉頭下行運動に伴い小舌垂下し，その逆気流で声帯を振動させて調音される弱有声無気の鼻音性入破音である。小舌垂下することによって口腔への通路が閉鎖されると同時に鼻腔への通路が開放されるため，鼻音化現象が生じやすいのである。これは厦門語の入破音の特徴であり，厦門語の入破音の鼻音化の決め手とでも言えるものである。

両唇音の[ɓ]の場合は両唇によって閉鎖が形成され，口腔内の空気は最大限溜まっているため，逆気流も[ɓ]は[ɗ]，[ɠ]より強く，喉頭下行を助ける力も強くなる。従って小舌垂下の幅も大きくなり，[ɓ]の鼻音性は最も強い。[ɓ]と比べて，[ɗ]は舌先と歯茎で閉鎖が形成されるので，口腔内の空間は[ɓ]の場合ほど広くなく，空気の量も少ないため，逆気流もやや弱い。[ɠ]の場合は軟口蓋で閉鎖が形成されるために，呑み込む空気の量はさらに少なく，逆気流は最も弱い。従って，厦門語の入破音の鼻音性の強弱の順を ɓ>ɗ>ɠ のように示すことができる。

厦門語の[ɓ]の調音過程は下記のような段階で分析できる。

①両唇による閉鎖を形成し声門を閉じたままに，

→②口腔内の空気を呑み込むように喉頭下行し，外見では喉仏が下がるが，

→③舌根と垂下した小舌との間に狭めができ，気圧が更に高くなり，

→④これによって生じる逆気流で声帯を振動させる。」

厦門語の[ɗ]の調音過程は下記のような段階で分析できる。

①前部歯茎と舌先による閉鎖を形成し声門を閉じたままに，

→②口腔内の空気を呑み込むように喉頭下行し，外見では喉仏が下がるが，

→③舌根と垂下した小舌との間に狭めができ，気圧がやや高くなり，

→④これによって生じる逆気流で声帯を振動させる。

厦門語の[ɡ]の調音過程は下記のような段階で分析できる。

①奥舌面と軟口蓋による閉鎖を形成し声門を閉じたままに，

→②咽頭腔内の空気を呑み込むように喉頭下行し，外見では喉仏が下がるが，

→③小舌が垂下して舌根との狭めができ，気圧がやや高くなり，

→④これによって生ずる逆気流で声帯を振動させる。

以上の入破音の記述についての各説の相違点をまとめてみると，次のようになる。

①口腔外からの息を呑み込むか吸い込むか

②喉頭が下降するか緊縮するか

③声帯を振動させるのは逆気流か呼気か

①については日本でも中国でもかつて研究者の間では論点になっていたが，「息を吸い込む」という表現であると，「吸気音 click」に連想させ，紛らわしいため，日本では入破音の記述に関しては「息を吸い込む」という表現を今は使っていない。しかし，中国では特に海南島では，一般の人々も入破音のことを「吸気音xīqìyīn」と言っている。筆者が数年前に海南島へ入破音の調査に行ったときに，バスガイドも屋台のお姉さんも海南島の「吸気音」は「息を吸って発音するように」と教えてくれたのは今でも記憶に新しい(朱新建1995をご参照)。言い方はともかく，同一発音を指しているから地元の人々には不都合がなかろう。しかし，果たして入破音は息を吸いこんで調音する発音であるかどうかは問題であるし，用語の混乱も引き起こす。したがって，海南島の入破音を「吸気音xīqìyīn」と表記した梁猷剛1958は梁猷剛1964では「喉塞音hóusāiyīn」と改めた。ただ，梁猷剛1964では海南島の入破音は「吸気作用xīqì zuòyòng」のある「喉塞音hóusāiyīn」と記述しているが，しかし，「喉塞音hóusāiyīn」では「喉頭閉鎖音」であるので，海南島の入破音の記述としては適切な表現ではない。その後の中国の研究では，「吸気音xīqìyīn」と区別するために「縮気音suōqìyīn」を使うようになったのである。

②については，「喉頭下降」というのはすべての入破音の共通点であり，入破音の一番の特徴であると考えている。筆者は「喉頭下行」という表現を使っている。「下降」は自然的に「下がる」のであり，「下行」は意識的に「下がる」と考えているので，入破音のこの特徴を強調するために，敢えて「喉頭下行」を用いた訳である。「喉頭緊縮」というのは趙元任1935の表現で，「喉頭部で狭めを形成する」という入破音の特徴をつかんでいる表現である。どっちかというと，「喉頭下降」は外見的な表現で，「喉頭緊縮」は内見的な表現である。入破音の記述では両方とも適切な表現であり，共に記述に使うとよいと考えている。

③については，①とは関連のあるところで，息を吸い込むにしても，呑み込むにしても，逆気流が生ずるはずなので，口腔からの逆気流で声帯を振動させる入破音と肺からの呼気で声帯を振動させる閉鎖音や破裂音との大きな違いでもあるところである。したがって，前述の梁猷剛1958の「気

管からの呼気の気流で声帯を衝撃させて濁音になる」との記述は適切とは言えず,城生佰太郎1988の引用したP. Ladefoged(1971)の「入破音と閉鎖音の違いを種類の別よりは寧ろ程度の差と見た方が良い」。「閉鎖音よりも沢山の空気を呑み込んだ上で,更にすばやく調音をすれば入破音に近いものができる」という記述では閉鎖音も入破音のように空気を呑み込んで調音することになるし,記述の混乱を招くことになる。これについては筆者はかつて次のように指摘したことがある(1996)。

厦門語の入破音[ɓ]と日本語の破裂音[b]を比較してみると,まず,調音の際の口腔での気流方向を見ると,[ɓ]が内行的(ingressive)であるのに対して,[b]が外行的(egressive)である。[ɓ]が調音の際,喉頭全体が下がる下行的(dropped down)であるのに対して,[b]が喉頭全体がもちあげられる上昇的(raised up)であるように,調音法が全く違う。次は,[b]は外行的であるため,強い破裂を行うと同時に出渡りに微かな息を伴う。これに対して,[ɓ]は内行的であるので,口腔内の空気は喉頭の方へ逆流するため,弱い破裂を伴うものの,全く無気である。同じ有声音であっても,有声の度合も性質もかなり違う。更に,調音の際,[b]は両唇による閉鎖を形成すると同時に,鼻腔への通路も閉鎖され,鼻音性をもたず,鼻音化しにくいが,[ɓ]の場合は[b]とは違って,小舌垂下のため,鼻腔への通路は開放されており,鼻音性が強く,鼻音化しやすいのである。調音点でも厦門語の[ɓ]と日本語の[b]に違いを見ることができる。外見からは[ɓ]も[b]も両唇による閉鎖であるため,上唇と下唇が調音点であることは一目瞭然であるが,厦門語の[ɓ]にはもう一つ口腔に隠れて見えない調音点が存在する。すなわち,調音の際に喉頭下行と小舌垂下によって喉頭部に形成される狭めである。この狭めは舌根と小舌との間に形成されるものであり,入破音の調音に大きな役割を果たすが,日本語の[b]にはこのような調音点は存在しない。

2. 入破音の体系と種類

国際音声字母International Phonetic Alphabet(1989年現在 Revised to 1989)を見ると,入破音の種類はɓ/ɓ, ɗ/ɗ, ʄ/ʄ, ɠ/ɠ, ʛ/ʛのように無声と有声のペアになって,5種類10個あることがわかる。これは入破音の研究が進んでこのような入破音が特定の言語に存在していることがわかった結果ではあるが,すべての入破音のある言語の中にこの5種類10個が全部そろっているというわけではない。なぜなら,入破音は人類の言葉の中の最も古い発音であっても,新しい発音では決してない。特に現代中国語に見られる入破音は一部の方言ではあまり残っておらず,共通語の普及などで消え去る傾向にさえあるのである。

2.1. ɓ, ɗ体系とɓ, ɗ, ʛ体系

中国語の入破音は有声の入破音であり,無声の入破音の研究報告はまだ見られない。有声の入破音のなかで,ɓ, ɗ体系とɓ, ɗ, ʛ体系がある。ɓ, ɗ体系の代表方言は呉方言で,ɓ, ɗ, ʛ体系の代表方言は

厦門方言である。海南方言はɓ,ɗ体系とされているが,筆者の調査によれば,海南方言にはɓ,ɗは語彙的に数多くあるが，厦門方言と同じように,ɠも僅かながら存在しているため,ɓ,ɗ,ɠ体系にするべきだと考えている。

ɓ,ɗ体系の主な理由は，この二つの入破音はそれぞれ歴史的に幇声母と端声母からきたのと,調音上,ɠが不可能だとされているからである。例えば,趙元任1935では次のように記述している。

この第九第十類の音の見方は非常に意味のある状況がある。つまりすべてこの音のある方言では,例外なく唇音と舌尖音に見られ,舌根音に見られない。この類の音は他の方言[p],[t],[k]に相当する音であり,この特類の声母のある方言では，常に['b],['d],[k]或いは[ʔb],[ʔd],[k],三番目はいつも普通の[k]である。ここの理由は難しくない。舌根と軟口蓋から声門までの空間は狭く,口腔の空間のわりと余裕のある[b]と[d]のようにかわったことができず,声帯がやや振動すると,そのわずかな空間はただちに息が一杯になり正圧力になってしまう。だから,空間も時間もなく,第九類のようなぶら下げる聴覚印象と第十類のような奥へと「破裂」する聴覚印象がない。大体舌根の破裂音は上述のような変わった事をしなくても有声化すること自身むずかしいものである。

梁猷剛1958では次のように記述している。

海口方言では吸気の破裂音は唇音と舌尖音のみで,舌根音がない。これは発音の原理から解釈できる。1)舌根音の閉鎖を形成する部位(舌根と軟口蓋)は口腔の後部にあり,破裂するときに口腔の外から口腔の内部へ気流を吸入するのはかなり困難である。2)舌根の閉鎖を形成する部位は喉頭に近いため，破裂後に気管から呼出した気流が忽ち声門を通過して舌根と軟口蓋の間に達するため,よって,吸気の舌根軟口蓋破裂音の調音はかなり困難である。

梁猷剛1958の記述は趙元任1935とさほど変わっていない。入破音の調音を分析する視点は口腔から気流を吸入するところにあるため,入破音の喉頭下降は無視されたことになり，ɠの存在も当然のように無視されることになったのである。

筆者は現地調査とインフォーマントによって厦門方言と海南の海口方言を分析し,ɠが存在する事実がすでに分かっているわけである。確かに語彙を見るとɠの例語は僅かしか見つけなかったが,それでもɠが立派な入破音であることは認めることができる。そして,入破音の調音を分析する場合,どこに着眼するかは見方が変わることもあり得る。上述のように,筆者は入破音の調音は一番大事なのは逆気流よりも喉頭下行であると考えているので,例えば,逆気流があって喉頭下降がなければ,いわゆる「吸気音」,「吸着音」clickになるわけで，軟口蓋のɠは両唇のɓと歯茎のɗほど口腔を利用してより多くの逆気流を生じさせることができなくても，喉頭下行はなんの妨げもなくできるので,立派な入破音になるわけである。

ɠについては筆者は次のように記述している(朱新建1996)。

厦門語の[ɠ]は前述の[ɓ],[ɗ]と一緒に[ɓ][ɗ][ɠ]のように入破音の体系をなしている。そして,

対応する鼻音はそれぞれ[m][n][ŋ]であり,[ɓ/m],[ɗ/n],[ɠ/ŋ]のように表記することができる。

厦門語の[ɠ]は調音の際,まず舌根と軟口蓋との閉鎖を(第1調音点)形成し,声門を閉じたままにして,咽頭腔内にある僅かな空気を呑み込むように喉頭全体が下がり,さらに小舌垂下して舌根との間に狭め(第2調音点)ができて,気圧がやや高くなり,これによって生ずる逆気流により声帯が振動する。ここでは,小舌垂下により,鼻腔への通路が開放されたままになるため,鼻音化しやすい点は前述の[ɓ][ɗ]の場合と同じである。

[ɠ]の調音は[ɓ][ɗ]よりも難しく,海南島海口・文昌方言のように,[ɠ]は無声無気の軟口蓋音[k]に代用される傾向が見られる。

厦門語の[ɠ]の語例を下記に示す。

語例	月亮	[ɠeʔnũ]	(月)	牛公	[ɠukaŋ]	(雄牛)
	門牙	[mẽɠe]	(前歯)	十五	[tsapɠɔ]	(十五)
	我	[ɠua]	(わたし)	阮	[ɠun]	(私たち)
	工藝品	[kaŋɠep'in]	(工芸品)	行業	[haŋɠiap]	(業界)
	方言	[hɔŋɠian]	(方言)	較劵食	[k'aʔɠauɕia?]	(食通)
	銀行	[ɠunhaŋ]	(銀行)	外国人	[ɠuakɔklaŋ]	(外国人)

海南方言にもɠが存在しているのは朱新建1995では指摘していた。語例はまだまだ調査を進めなければならないが,「牛」は[ɠu],「牙」は[ɠe],「鶏」は[ɠue]などの例はある(朱新建1995をご参照)。

以上のように,呉方言の入破音はɓ,ɠ体系に分類でき,海南方言と厦門方言の入破音はɓ,ɗ,ɠ体系に分類できる。

2.2.非鼻音化型[ɓ,ɗ],[ɓ,ɗ,ɠ]と鼻音化型[ɓ/m,ɗ/n],[ɓ/m,ɗ/n,ɠ/ŋ]

海南方言の入破音は非鼻音化型(the type of unnasalized implosive)ɓ,ɗ,ɠ体系であり,厦門方言の入破音は鼻音化型(the type of nasalized implosive)ɓ/m,ɗ/n,ɠ/ŋ体系である。呉方言の入破音は非鼻音化型ɓ,ɗ体系と鼻音化型ɓ/m,ɗ/n体系がある。

厦門方言の入破音の鼻音化について,筆者は次のように記述している(朱新建1996)。

厦門語の入破音は,声門を完全に閉鎖したまま,喉頭下行運動に伴い小舌垂下し,その逆気流で声帯を振動させて調音される弱有声無気の鼻音性入破音である。小舌垂下することによって口腔への通路が閉鎖されると同時に鼻腔への通路が開放されるため,鼻音化現象が生じやすいのである。これは厦門語の入破音の特徴であり,厦門語の入破音の鼻音化の決め手とでも言えるものである。

厦門語の入破音の小舌垂下は,口腔内に溜まっている空気を呑み込むことによって生ずる逆気流の助けを借りながら喉頭全体が下行するとともに小舌が垂下するが,喉頭下行の強弱の度合に

よって小舌垂下の幅が決まる。さらに,小舌垂下の幅によって,鼻腔への通路の開放度が決まるのである。逆気流が強ければ,喉頭下行の力も強い。喉頭下行の力が強ければ,小舌垂下の幅も大きい。小舌垂下の幅が大きければ,鼻腔への通路の開放度も大きいために,厦門語の入破音の鼻音性も強くなる。

上述のように，厦門方言の入破音の鼻音化は入破音の調音のしくみによるものであることがわかる。すなわち,厦門方言の入破音は調音の際,喉頭下降と同時に小舌垂下し,鼻孔への通路は解放されている。したがって,末鼻音や鼻母音が後続する場合,頭子音の入破音は鼻音化しやすいわけである。

一方,呉方言の入破音の鼻音化については,上海の入破音は鼻音化する報告がまだみられないが,浙江南部の入破音の鼻音化について鄭張尚芳1988は次のように記述している。

永康,縉雲などにおいて,ʔb,ʔd声母は末鼻音の音節には現れない。末鼻音の音節では鼻音声母のm,nに同化されるが，陰の声調のままである(呉語の陰声調の鼻音声母はいずれも喉頭がやや緊縮し,濁流がせず,よって'm,'nか,ʔm,ʔnと表記してもよい)。縉雲を例に,ɛiŋ,aŋ,omなど今日でいう末鼻音の前にはʔb,ʔdは同じ調音部位の鼻音になる。例えば:

非末鼻音	ʔbə^{3}保	ʔbo^{3}鮑榜	ʔba^{7}百	ʔdə^{1}刀	ʔdiu^{3}闘	ʔdɛ^{3}短
末鼻音	mɛ̃iŋ^{1}兵氷	mɛ̃iŋ^{3}餅	nɛ̃iŋ釘灯	nom^{1}東冬	nom^{5}凍	

更には知声母の字が口語音で端声母のようなものも,nになることがある。例えばnaŋ^{1}砧。

永康は今日の末鼻音の音節にかかわらず，古音の末鼻音の音節で今日に介音(わたり音)のない場合も鼻音化してm,nになる。例えば:

今末鼻音	maŋ^{1}幇	məŋ^{3}本	miŋ^{1}氷兵	naŋ^{1}当	noŋ^{1}東冬	niŋ^{1}釘灯
古末鼻音	ma^{5}扮絆	mai^{5}繃		na^{1}担丹	nai^{3}打	

このような閉鎖音鼻音化現象は彼の有名な「鳥」のn化(元は都了切[diao]，端声母,n化は多分言葉の下品さを避けるため)というごく少数の例外を除いて,中国語の方言においてはそうあるものではない。ただし,ʔb,ʔdの鼻音化現象は侗台語のなかではよく見られる。例えば,壮(チワン)語北方方言の武鳴のʔb,ʔd,田東,平果,横県などの地ではm,nに鼻音化し,南方方言の龍州のʔb,ʔd,後の多くは邕寧,扶綏,隆安,天等は例外なくm,nになる。例えば:

	飛	村寨	叶子	鼻子	得	罵
龍州	ʔbin^{1}	ʔba:n^{3}	ʔbaɯ^{1}	ʔdaŋ^{1}	ʔdai^{3}	ʔda^{5}
天等	min^{2}	ma:n^{3}	mau^{2}	naŋ^{2}	nai^{3}	na^{5}

西双版納(シーサンパンナ)タイ語のなかのʔb,ʔdは徳宏のタイ語ではmとlになる④。例えば:

	飛	村寨	叶子	鼻子	得	罵
西タイ語	ʔbin^{1}	ʔba:n^{3}	ʔbai^{1}	ʔdaŋ^{1}	ʔdai^{3}	ʔda^{5}

徳タイ語　men^{6}　ma:n^{3}　mauu^{6}　laŋ^{6}　lai^{3}　la^{5}

浙江省南部方言とは異なるのは，チワン語の音便は末鼻音にかぎらず，ʔb，ʔd声母全部転化するのである。このような状況は浙江省ʔb，ʔd分布圏の近隣県にも程度が違うが，存在している。例えば，武義語の端声母の字が皆n(古末鼻音)とl(非末鼻音)になっており，幇声母がmに音便する場合だけ古末鼻音を条件としているが，非末鼻音の場合はpである。

古末鼻音　mie^{5}変　muo^{3}板　miŋ^{1}氷　məŋ^{3}本　nie^{5}店　nuo^{3}胆　niŋ^{1}釘　nəŋ^{5}頓

非末鼻音　pie^{3}表　puo^{1}波　pia^{5}拜　lie^{5}釣　luo^{3}躲　lia^{5}帯

これらの現象から見て，我々は武義の幇，端声母は元々ʔb，ʔdだったかもしれず，今日のm化，n化，l化現象は縉雲，永康など隣県のもʔb，ʔdからきたかもしれない。

鄭張尚芳1988のこの記述を見れば，浙江南部の入破音は厦門方言の入破音と非常に似ていることがわかる。入破音の鼻音化だけでなく，入破音ɗのl化も頗る似ている(朱新建1996をご参照)。

上述の各説をまとめると，海南島の入破音ɓ，ɗ，ɠ体系と上海のɓ，ɗ体系は非鼻音化型入破音であり，厦門方言の入破音ɓ，ɗ，ɠ体系と浙江南部の入破音ɓ，ɗ体系は鼻音化型入破音であることがわかり，それぞれ厦門方言の入破音はɓ/m，ɗ/n，ɠ/ŋ，浙江南部の入破音はɓ/m，ɗ/nと表記することができる。表にまとめてみると次のようになる。

中国語に見られる入破音分布分類表

分布＼分類	閩方言圏		呉方言圏	
	海南方言	厦門方言	浙江南部方言	上海周辺方言
体系	ɓ　ɗ　ɠ		ɓ　ɗ	
鼻音化型		ɓ/m　ɗ/n　ɠ/ŋ	ɓ/m　ɗ/n	
非鼻音化型	ɓ　ɗ　ɠ			ɓ　ɗ

2.3. 中国語周辺言語の入破音

中国語周辺言語の入破音については，中国境内にある侗台語，黎語，京語など，中国の近隣諸国，ベトナム語，タイ語などの言語には入破音のあることは周知のとおりである。問題は古代からこれらの民族は中国の南部で漢民族と数千年にわたる文化の交流や融合があったことが大事である。今でもこれらの民族は少数民族として漢民族と交流を続けているのである。海南島の黎族，広西の

京族(ベトナム民族),雲南のタイ族,などなど。これらの民族は漢民族から大量的に借用語をするのと同じように,漢民族もこれらの民族から少なからぬ言葉の影響を受けているわけである。海南方言の入破音はその好例である。これについては,橋本万太郎1978『言語類型地理論』(弘文堂),同氏1981『現代博言学』(大修館書店),陳宝亜1996『論語言接触与語言聯盟ー漢越(侗台)語源関係的解釈』(語文出版社)などを参照されたい。

ここで,筆者のベトナムへ現地調査したことについてすこし報告したい。

筆者は平成10年度の古川学術研究振興基金研究費を受領して，中国語の入破音の研究と現地調査を兼ねて,昨年の2月から3月の間に,名古屋→上海→長沙→広州→ホーチミン→ダナン→フエ→ハノイ→下龍湾→南寧→桂林→長沙→上海→名古屋といったぐあいに研究旅行に行ってきた。実に良い勉強になったわけである。筆者は厦門大学の出身であり,海南島にも3回は行ってきたので,今回はベトナムが中心であった。ベトナム語は三カ月間習ったが,思ったより難しかった。幸い愛知学院大学にホーチミンからの留学生が居て,ホーチミンでいろいろ案内してもらい,ほとんど何にも不自由しなかった。曾て英語専攻だった家内を同行させたので,どこへ行っても英語が通じたので,また随分楽しい思い出になった。古川基金に心から感謝したい。

ところで,ホーチミン空港に到着したら，税関で旅券を見せたら,流暢な中国語で「你是老師,是大老師呀!Ní shì lǎoshī, shì dà lǎoshī a!(あなたは先生ですね，大先生ですね。)」と言われたときに(当時の旅券の資格と査証はいずれも「教授」だった),さすがベトナム,中国に近い越南だなあ,と思った。留学生のアンヤン君と彼の彼女が空港まで迎えに来てくれた。そして,アンヤン君の実家でまたすごい御馳走になってしまった。驚いたのはアンヤン君一家三人兄弟とも優秀な大学生で,英語がぺらぺらだけでなく,日本語もすごく上手だったことである。

しかし,ホテルまで送ってくれるといって，アンヤン君はわたしを,アンヤン君の弟さんは家内を原付きの後ろに載せて，すべての道路にあふれている「原付きの軍団」をスイスイと抜けて町を走ったとき,来日早々のとき,原付きで新聞配達一年,オートバイ大好きなわたしでも,ドキドキはらはらであった。大きな荷物をしょっていたし,なにしろ原付きの後ろに乗るのは実は初めてだった。しかし,ホーチミンの原付き軍団は北京の自転車洪水とここまで風景が似ていて，緊張感が伝わってくるとは,テレビ画面じゃ到底味わえないものがあった。でもなぜか,ホーチミンは中国の厦門,海南島となんとなく町の雰囲気が似ており,親近感があって，ここは別国だという違和感はなかった。

もちろん,あっちこっち入破音の連発であった。一生懸命厦門語話者や海南方言話者にならった入破音はいまでもあまり自信がないのに,ここの誰もが「上手」に話されて本当に「感服」した。とにかく歩いた。タクシーに乗ると英語になるからである。露店で食事をしたり,公園でのんびりしたり,町の喧嘩を見物したり,できるだけ耳でベトナム語を体験した。土産店などで日本語が耳に入っ

たときいささか不機嫌さえあった。

ホーチミンに3泊4日，ダナンとフエに2泊3日，ハノイに3泊4日，下龍湾に1泊2日，前後10泊11日のベトナムは，実に入破音を「満喫」した。耳の体験では，ホーチミンのコーチシナ方言，ダナン，フエのアンナン方言，ハノイのトンキン方言はいずれも純粋な入破音の世界で，強いて外に何か発音がちがうといったら，ホーチミンのそり舌音が印象的で，各地は声調がややちがうという印象である。

次はまず一応，ベトナム語の音声を次のように示しておこう。

ベトナム語の音声体系

字母：ベトナム語の字母はラテン文字を用い，次のように29個ある。

A	a	Ă	ă	Â	â	B	b	C	c	D	d	Đ	đ	E	e	Ê	ê	G	g	H	h	I	i	K	k	L	l	M	m
[ɑ:]		[ɑ]		[ɤ]		[ɓe]		[se]		[ze]		[ɗe]		[ɛ]		[e]		[ze]		[hɑt]		[i]		[kɑ]		[ɛlɤ]		[ɛmɤ]	
N	n	O	o	Ô	ô	Ơ	ơ	P	p	Q	q	R	r	S	s	T	t	U	u	Ư	ư	V	v	X	x	Y	y		
[ɛnɤ]		[ɔ]		[o]		[ɤ]		[pe]		[ku]		[ɛrɤ]		[ɛt si]		[te]		[u]		[ɯ]		[ve]		[ik si]		[i zai]		[ikɤrɛt]	

頭子音：(19個)

表記　/b/, /m/, /p/, /ph/, /v/, /th/, /t/, /đ/, /n/, /x/s/, /d/gi/r/, /l/

音声　[ɓ], [m], [p], [f], [v], [t'], [t], [ɗ], [n], [s], [z], [l]

表記　/ch/tr/, /nh/, /c/k/q/, /ng/ngh/, /kh/, /g/gh/, /h/

音声　[ts], [ɲ], [k], [ŋ], [x], [ɣ], [h]

末子音：(8個)

表記　/m/, /n/, /ng/, /nh/, /p/, /t/, /c/, /ch/

音声　[-m], [-n], [-ŋ], [-ɲ], [-p], [-t], [-k], [-ḳ]

単母音：(11個)

表記　/i/, /ê/, /e/, /ă/, /a/, /â/, /ơ/, /o/, /ô/, /u/, /ư/

音声　[i], [e], [ɛ], [ɑ], [ɑ:], [ɤ], [ɤ:], [ɔ], [o], [u], [ɯ]

介母音：(1個)

表記　/o/u/

音声　[w]

重母音：

表記　/ia/, /ya/, /-iê-/, /yê-/, /-uô-/, /ua/, /-ươ-/, /ưa/

音声　[ie], [uo], [ɯɤ],

上に示したように，ベトナム語は漢字を廃止してからラテン文字を使用することになって以来，われわれ中国人にとっては不便さえ感じてきた。

ベトナム語の代表方言は標準語となっている北のハノイ方言と，南のホーチミン方言である。発

音の面では，そり舌などいくつかの発音と声調に違いが見られるが，言葉としてよく通じ合うし，基本的にほとんど同じであると言ってよい。ハノイ方言の子音は次の表に示すことができる。

ハノイ方言子音体系表

		両唇音	唇歯音	歯茎音	後部歯茎音	硬口蓋音	軟口蓋音	声門音
破裂音	無気音	p		t			k	
	有気音			t‘				
入破音		ɓ		ɗ				
鼻音		m		n		ɲ	ŋ	
摩擦音	無声音		f		s		x	h
	有声音		v		z		ɣ	
破擦音						ts		
側面音				l				
末子音		-p, -m	-t, -n			-ɲ, -ḳ	-k, -ŋ	

一方，ホーチミン方言の子音は次の表に示すことができる。

ホーチミン方言子音体系表

		両唇音	唇歯音	歯茎音	後部歯茎音	そり舌音	硬口蓋音	軟口蓋音	声門音
破裂音	無気音	p		t				k	
	有気音			t‘					
入破音		ɓ		ɗ					
鼻音		m		n			ɲ	ŋ	
摩擦音	無声音		f		s	ʂ		x	h
	有声音					ʐ		ɣ	
破擦音							ts		
側面音				l		ɭ			
末子音		-p, -m	-t, -n				-ɲ, -ḳ	-k, -ŋ	

ベトナム語の声調はハノイは次の6種類あるが，ホーチミンは第5声と第6声は同じ5声になっている。

ベトナム語声調表

声調	種類	名称	符号	調値	発音	中国語声調参考
①	Băng	平声	なし	˥ 55	高平	陽　平
②	Săc	鋭声		˧˥ 35	高昇	陽去陰入
③	ahuyên	玄声		11	低平	陽　平
④	Hoi	問声		˧˩ 214	降昇	陰　上
⑤	Nga	跌声		135	低短高平	陽　上
⑥	Năng	重声		11	低短	陽去陰入

今回の都合で割愛するが，他の機会ではベトナム語の入破音についてしっかり論じたい。

3. 呉方言の入破音

呉方言の入破音に関する先行研究は，鄭張1995によると，「E. H. Pakerはかつて1884年に当時の温州郊外に[?b][?d]があるとの報告があった」。これは呉方言の入破音に関する最初の研究報告のようである。

趙元任1935の『中国方言当中爆発音的種類』(歴史語言研究所集刊第五第四分，商務印書館)では，「第九類は有声音の[b]で同時に声門がすこし緊縮する」，「第十類は第九類とあまり差はなく，ただ喉頭部がさらに緊縮し，有声の度合いも強い。」などと記述したのは1. 4. で触れた。これは中国人学者による呉方言の入破音に関する最初の研究報告のようである。

呉方言上海金山方言の入破音について，游汝傑1984では下記のように記述されている。

老派の金山方言では，中古音の幇声母はp, ?bの二種類の発音があり，中古音の端声母はt, ?dの二種類の発音がある。?b, ?dの発音の原理は次のとおりである。閉鎖を形成する段階では喉頭が閉鎖し，両唇が閉じるか舌尖と上の前歯が閉じ，喉頭が下降する。喉頭の下降により，閉鎖が継続する間，口腔の空間が増大し，空気が薄くなり，気圧が下がる。閉鎖を破る際に声門が緊縮するため，肺部から流れ出る気流が少なすぎて，喉頭下降により増大した口腔の空間を充満することができないために，自然に口腔外の気圧のやや高い気流を吸入し，声帯を振動して濁音を発する。

語例として游汝傑1984は次のように示している。

『方言調査字表』のなか，幇，端の二声母には少なくとも一つの調査地では?b, ?dと読むのがあり，合計137字で，全体の64%を占めている。次に挙げておく。

果攝:多朶躲｜假攝:巴芭疤爸｜遇攝:補譜布布妬蠹肚都賭｜蟹攝:貝呆戴帯拜擺閉底低抵帝杯輩背堆對｜止攝:碑卑悲｜效攝:褒保堡宝報刀叨祷島倒到包胞飽豹爆膘標刁貂雕釣吊｜流攝: 兜斗抖陡鬥｜咸攝:耽担胆点店｜山攝:丹単旦扮八班頒扳板版鞭編変憋鼈邊蝙扁匾遍顛典般搬端短半絆断斷鍛鉢撥掇｜臻攝:彬賓檳殯筆畢必不｜宕攝:博｜江攝:邦｜曾攝:登灯等凳得徳北逼｜梗攝: 打百柏伯迫碧璧頂鼎｜通攝:卜東董懂凍棟冬篤督(中略)

「縮気」の程度をみると，大体強い，やや強い，やや弱いの三種類に分けることができる。強いの種類は趙元任がまとめた中国語方言破裂音の中の第十種類に相当し，即ち?b, ?dである。後の二種類は第九類に相当し，即ち'b, 'dである(『中国語方言の中の破裂音の種類』，歴史語言研究所集刊五本四分，1935年)。強弱が字音の分布における違いは音声上から規則を見出すのが難しい。次は松隠の発音を例に挙げて，声母の入破が強い字とやや強い字を下に示す。

強い: 到 祷 島 倒 東 冬 担 胆 丹 単 旦 扮 都 肚 賭

やや強い: 多 擺 杯 輩 背 堆 對 悲 扁 匾 端 短 百 柏 伯 迫

さらに游汝傑1984では以下のように指摘されている。

周知のように，我が国境内のチワン語族と東南アジア国家の一部の言語に縮気塞音(注:入破音)

が存在している。中国語海南，松江，浦東，永康，永嘉方言の縮気塞音についても前後相成って報告されたことがある。•••上海郊外の縮気塞音は他の方言或いは言語の縮気音(注:入破音)とは性質が同じである。少なくとも金山方言の中のわりと強い縮気音は筆者の耳にしたベトナム語，チワン語と浙江南部の中国語方言，海南の中国語方言の縮気音とは全く類比できるものである。

鄭張尚芳1988は上海周辺及び浙江南部の入破音の分布について次のように記述している。

浙江省と上海の呉語方言にはこの二つの声母は結構見られる。浙江省南部と上海郊外県の少なくても八県にはこの二つの声母の分布が分かっている。浙江省と上海で合計16県以上見られることは偶発の現象ではないはずである。ただ，各地の?b, ?dの喉頭閉鎖の強弱が異なるだけである。上海のほとんどの方言及び浙江省の永康，景寧などの県では喉頭閉鎖が弱いため，趙元任先生が『現代呉語の研究』(1928)では浦東，松江，永康の緊喉濁塞音をただのb, dとして記述した。しかし，後には『中国方言の中の破裂音の種類』(『史語所集刊』第5本第四分，1935)の中で，この3カ所の方言のb, dはいずれも「同時に声門がやや緊縮する」b, dであると記述している。これが呉語方言の中に緊喉濁塞音が存在する最初の報告である。

私の調査によると，この二つの緊喉濁塞音声母は現在は浙江省の4つの地区に分布していることは既に分かった。最も集中しているのは麗水地区で，縉雲，青田，景寧(今は雲和に属す)，慶元4県；その次は温州地区で，永嘉，文成2県，台州地区では仙居県，金華地区では永康県である。これらはほとんどは山岳地区である。先行者及び復旦大学の調査によると，上海では南彙，川沙，奉賢，上海，松江，金山，嘉定などの県及び市街区の老派に分布している。これからの更なる調査につれて，新しい分布区を発見する可能性はある。

浙江と上海のこの二つの緊喉濁塞音はいずれも古音の全清声母(無声無気の破裂音)を表すものである。即ち，幇声母は?bで，端声母は?dであり，他の?b, ?dを有しない呉語方言の中のp, tに相当する。浙江各県の?b, ?dは上海よりは完全な形で保たれ，普通幇声母端声母例外なく?b, ?dであり，上海の一部の県のように，老派や一部にしか残っておらず，?b, ?dとp, t共存し，?b, ?dはp, tの異音になっている情況とは違う。?b, ?dの喉頭緊縮は浙江の多くの県は比較的に強いが，上海の各県は強い調音は少ない。

この二つの緊喉濁塞音声母の字が各地とも陰の声調であり，陽の声調のb[bɦ, pɦ], d[dɦ, tɦ]声母と対立をなしている。次は永嘉蓬溪を例に，全清，次清，全濁の三類の声母の声調分布(便宜のため，次のようにそれぞれ単数1, 3, 5, 7で陰の平上去入，偶数の2, 4, 6, 8で陽の平上去入を表す)を比較したい。

古全清	陰声調	?bai^{1}杯	?bu^{5}布	?biŋ^{3}餅	?dai^{5}對	?do^{1}多	?doŋ^{3}懂
古次清	陰声調	phai^{1}坏	phu^{5}舖--路	phiŋ^{3}品	thai^{5}退	tho^{1}	thoŋ^{3}統
古全濁	陽声調	bɦai^{2}賠	bɦu^{6}步	bɦiŋ^{4}並	dɦai^{6}隊	dɦo^{2}	dɦoŋ^{4}動

上のように，?b,?dは有声の閉鎖音であるが，喉頭緊縮の?により清音の類に帰属し，次清と同じように陰の声調をもち，全濁とは異なる。この点は侗台語の?b,?dが陰の声調であるのと一致している。

さらに鄭張尚芳1995には次のように記述している。

浙江省南部の八つの県に有声の先声門閉鎖音?b,?dが存在する。(中略)この子音はまた上海の郊外県にも観察される。趙元任1928は松江と浦東の南汇にそれが見られるとの報告があり，袁家驊など1960は浦東の川鄧をそれに追加している。復旦大学呉語研究室の調査によると，奉賢，金山，嘉定，上海県及び市街区の老派にも有声の先声門閉鎖音の存在することが判明した。例えば，「疤，帯」は金山，永嘉とも?bo^{1}，?da^{5}と読む。

先声門閉鎖音?b,?dの最大密集地は古百越地区の西端であり，海南の閩南方言以外に，広く壮僮語族の諸言語に分布しており，(中略)隣国のタイ語，ラオス語，アハン語，ベトナム語などにも見られる。(中略)浙江省南部，上海呉語の?b,?dは陰調であるが，海南の閩南方言や壮僮諸言語の?b,?dも同じく陰調である。

上の先行研究で指摘したように，上海近郊県や浙江南部の呉方言圏に見られる?b,?dは紛れも無く入破音である。そして，浙江南部の呉方言には鼻音化型の入破音?b/?m,?d/?nも存在しているなど，前述の2.2.で触れた。呉方言圏の入破音について筆者自身による現地調査などはまだこれからしなければならないが，他の機会で呉方言圏の入破音と閩方言圏の入破音との関連性を明らかにしたい。今までの研究成果をみても，浙江南部の鼻音化型入破音とɗのl化現象などは厦門方言の鼻音化型入破音，ɗのl化との共通点が多いことが分かっており，さらなる研究が待たされている。

4.海南島に見られる入破音の研究

海南方言は閩方言圏の閩南方言であり，海口方言と文昌方言は代表方言である。同じく閩南方言としては，閩である福建省の南部に位置し，地域共通語としての厦門方言があり，そして漳州方言，泉州方言，東山島方言や，台湾省の台湾方言などが挙げられる。距離的には海南島は福建省とはかなりあるが，同じ閩南方言であり，そして，入破音という特殊な音声を共有している。

海南方言の入破音について，まず，趙元任1935は次のような記述がある。

曾て李方桂が海南島方言を調査しているときに音響スペクトログラムで証明済みである。彼の得た曲線上では，通常のいわゆる「破裂」の部分は，曲線は外へ動かないばかりか，確かに奥へ動いたのである(これは電球の破裂にたとえることができる)。今まで調査した中国の方言の中では，この類の音は海南島の東北部にしか観察されない。例えば，「氷」は文昌では[?beŋ]，浦東では['biŋ]，上海では[piŋ]である。

李方桂が海南島方言を調査したときの論文はまだ入手していないが，海南方言の入破音につい

ての最初の論述であることは間違いがないであろう。

梁猷剛1958では，海南島海口方言の入破音を次のように記述している。

海南島海口市の方言は中国語の地域方言の1つであり，音声の構成，基本語彙と文法構造から見れば，大体閩南方言の系統に属する。しかし，音声の面で突出の特徴が1つある。それが即ち声母としての子音[ɓ]と[ɗ]が有声の吸気音である。

梁猷剛1958の「吸気音」の用語の不備についてはすでに1.4.で指摘したとおりである。

梁猷剛1958では次のように海口方言の入破音ɓ，ɗについて貴重な語例を提供した。

海口方言では，声母が[ɓ]の字が以下のとおりである。

(1)古音声母が「幫」で，現代北京語の音声では[p]のもの。海口方言は全部[ɓ]と読む。

波[ɓo˩˧]	把[ɓa˩˧]	布[ɓu˩˧]	拜[ɓai˩˧]
閉[ɓi˩˧]	杯[ɓɔi˩˧]	堡[ɓau˩˧]	標[ɓiau˩˧]
班[ɓaŋ˩˧]	変[ɓin˩˧]	賓[ɓin˩˧]	本[ɓun˩˧]
幇[ɓaŋ˩˧]	崩[ɓɔŋ˩˧]	氷[ɓeŋ˩˧]	丙[ɓeŋ˩˧]
八[ɓi˥˧]	別[ɓit˧˩]	撥[ɓuak˥˧]	
必[ɓit˥˧]	博[ɓɔk˥˧]	碧[ɓek˥˧]	

(2)古音声母が「並」で，声調が仄声であり，現代北京語の声母が[p]のもの。海口方言は全部[ɓ]と読む。

部[ɓu˧˩]	敗[ɓai˧˩]	幣[ɓi˩˧]	暴[ɓau˧˩]
辦[ɓaŋ˧˩]	辨[ɓin˧˩]	笨[ɓun˧˩]	並[ɓeŋ˩˧]
拔[ɓuak˥˧]	泊[ɓɔk˥˧]		

3)古音声母が「並」，声調が平声で，現代北京音の声母が[p‘]のものは，海口方言は普通[f]であるが，次の各字だけ[ɓ]と[f]の又読みがある。

爬[ɓa˧˩] [fa˧˩]	排[ɓai˧˩] [fai˧˩]
牌[ɓai˧˩][fai˧˩]	賠[ɓue˧˩] [fue˧˩]
脾[ɓi˧˩] [fi˧˩]	袍[ɓau˧˩] [fau˧˩]
便[illegible] [ɓaŋ˧˩] [fin˧˩]	盤[ɓua˧˩] [fuaŋ˧˩]
平[illegible] [ɓɛ˧˩] [feŋ˧˩]	

4)古音声母が「非」或いは「奉」で，現代北京音の声母が[f]のものは，海口方言は普通[f]であるが，次の各字だけ[ɓ][f]の又読みがある。

「非」声母：

斧[ɓau˩˧] [fu˩˧]	傅[ɓau˩˧] [fu˩˧]
飛[ɓue˩˧] [fɔi˩˧]	弗[ɓui˩˧] [fui˩˧]

分𢾊[ɓun˩] [fun˩]　　糞[ɓun˩] [fun˩]

方四邦[ɓaŋ˩][faŋ˩]　　放[ɓaŋ˩] [faŋ˩]

幅[ɓak˥] [fok˥]

「奉」声母:

符𢾊[ɓau˩] [fu˩]　　吠[ɓui˩] [fui˩]

肥[ɓui˧] [fi˧]　　馮[ɓaŋ˧] [foŋ˧]

佛[ɓut˩]③

3)と4)は[ɓ]と読むのは一般的に「説話音(話し言葉,訳注)」であり,[f]と読むのは「読書音(書き言葉,訳注)」で,厳格な区別はない。普段話すときも「読書音」を使うこともあるし(例えば,「脾気不好」[fi˥k'ui˩vo˥ho˩]),読書するときも「説話音」を使うこともある(例えば,「与子同袍」[zi˩tsi˩hɔŋ˥ɓau˥])。ただ,両者の中では[ɓ-]が多い。

海口方言の声母が[ɗ]であるものは以下の通りである。

1)古音声母が「端」で,現代北京語の声母が[t]であるものは海口方言はすべて[ɗ]である。

躲[ɗo˩]　都𨱗[ɗu˩]　呆[ɗai˩]　低[ɗɔi˩]

抵[ɗi˧]　対[ɗui˩]　叨[ɗau˩]　鬥[ɗɔu˧]

耽[ɗam˩]　店[ɗiam˩]

丹[ɗaŋ˩]　典[ɗin˩]　断[ɗuan˩]　敦[ɗun˩]

党[ɗaŋ˩]　登[ɗɔŋ˩]　丁[ɗeŋ˩]　董[ɗoŋ˩]

答[ɗa˥]　得[ɗit˥]　篤[ɗok˥]

2)古音声母が「定」で,成長は仄声で,現代北京語の声母は[t]のものは海口方言ではすべて[ɗ]である。

大[ɗa˩]　杜[ɗu˥]　怠[ɗai˩]　遞[ɗɔi˥]

隊[ɗui˩]　地[ɗi˥]　道[ɗau˩]　調声調[ɗiau˥]

淡[ɗam˥]

但[ɗaŋ˥]　電[ɗin˩]　盾[ɗun˩]

蕩[ɗaŋ˩]　鄧[ɗɔŋ˥]　定[ɗeŋ˩]

疊[ɗiap˩]　敵[ɗek˩]　独[ɗok˩]

3)古音声母が「定」で,声調は平声で,現代北京語の声母が[t']のものは海口方言は一般に[h]と読むが,以下のものだけ[ɗ][h]の又読みがある。

題[ɗɔi˧]　[hɔi˧]　　涛[ɗau˧]　[hau˧]

檀[ɗua˧]　[haŋ˧]　　壇[ɗua˧]　[haŋ˧]

屯[ɗun˧]　[hun˧]　　豚[ɗun˧]　[hun˧]

飩[ɗun˩]	[hun˨]	臀[ɗin˩]	[hun˨]
堂[ɗo˨]	[haŋ˨]	塘[ɗo˨]	[haŋ˨]
藤[ɗin˨]	[heŋ˨]	亭[ɗeŋ˨]	[heŋ˨]
庭[ɗia˨]	[heŋ˨]	同[ɗaŋ˨]	[hɔŋ˨]
銅[ɗaŋ˨]	[hɔŋ˨]	筒[ɗaŋ˨]	[hɔŋ˨]

以下各字は,[ɗ]の発音だけである。

屠[ɗu˩]	蹄[ɗɔi˨]	条[ɗiau˨]
甜[ɗiam˨]		

4)古音声母が「知」で,現代北京語の声母が[tʂ]のものは，海口方言では一般に[ts]と読むが,以下の各字だけ[ɗ]と[ts]の又読がある。

張[ɗio˩]	[tsiaŋ˩]	帳[ɗio˩]	[tsiaŋ˩]
脹[ɗio˩]	[tsiaŋ˨]		
着[ɗio˨]	[tsiɔk˨˩]	卓[ɗo˥]	[tsiɔk˥]
琢[ɗue˥]	[tsiɔk˥]	啄[ɗue˥]	[tsiɔk˥]
摘[ɗia˥]	[tsɔk˥]	竹[ɗiɔk˥]	[tsɔk˥]

このほか,「猪」という字は[ɗu˩]と読むのみである。

5)古音声母が「澄」で,声調は仄声で,現代北京語の声調が[tʂ]のものは,海口方言では一般に[ts]であるが,以下の3字だけ[ɗ]と[ts]の又読がある。

箸[ɗu˩]	[tsi˩]	滞[ɗi˩]	[tsi˩]
重[ɗaŋ˨]	[tsoŋ˩]		

6)古音声調が「澄」で,声調が平声で,現代北京語の声母が[tʂʻ]のものは,海口方言は一般に[s]と読むが,以下の各字のみ[ɗ]と[s]の又読がある。

茶[ɗɛ˨]	[sa˨]	厨[ɗu˨]	[su˨]
遅[ɗi˨]	[si˨]	錘[ɗui˨]	[sui˨]
綢[ɗiu˨]	[siu˨]	陳[ɗaŋ˨]	[sin˨]
長[ɗo˨]	[siaŋ˨]	腸[ɗo˨]	[siaŋ˨]
場[ɗio˨]	[siaŋ˨]		

3)4)5)四種類の中で,[ɗ]は「説話音」で,[h][ts][s]は一般に「読書音」であるが,厳格な区別はない。普段話すときも「読書音」を使うこともあれば(例えば,「肚脹」[ɗau˩tsiaŋ˨]),読書するときに「説話音」を使うこともある(例えば,「着重研究」[tsiɔk˨ɗaŋ˨ŋin˩kiu˩])。

梁猷剛1964では「吸気音」を「喉塞音」に改め，表記は6,ɗから?6,?ɗに変えたことについては前述1.4.のとおりである。

筆者は3回にわたり，海南島へ現地調査に行ってきたが(朱新建1995)，海南方言の入破音体系は非鼻音化型で[ɓ, ɗ, ɠ]体系であることを確認した。しかし，1.4.で述べたように，[ɠ]は海南方言では[k]としており，音声の実態がまだ明らかではないが，これから調査を進めていきたい。

5.厦門方言の入破音

筆者の研究結果では，厦門方言の入破音は鼻音化型[ɓ/m, ɗ/n, ɠ/ŋ]体系の入破音である。

趙元任1935では次のように厦門方言の[b, d, g]を第八類の「爆發音」に分類し，その鼻音化をも指摘した。

「第七第八第九第十類は本当の有声音であり，換言すれば，破裂する前に声帯がすでに振動して楽音になっているからである。(中略)

第八類は普通の弱い有声音である。前述の他の類での変化が見られる以外は，時には独立した音素となる。厦門語においは多くの他の方言の[m]に相当する。例えば，厦門語の「帽」[bo]は国語の[mɑʊ]である。」

厦門方言の入破音[ɓ/m, ɗ/n, ɠ/ŋ]については一部の語例を以下に示しておく(朱新建1996)。

麦穂	[ɓesui]	(玉蜀黍)	烏白浄	[ɔɓeiɕĩ]	(いじみあう)
無柱柱	[ɓotutu]	(そうとは限らない)	麻文笑	[ɓaɓunɕio]	(微笑む)
麻雀	[ɓaɕiok]	(麻雀)	某舅	[ɓɔku]	(いとこ)
大罵	[ɗuamẽ]	(口喧嘩する)	礼貌	[ɾemãũ]	(礼儀)
拓煤炭	[t'uʔmẽt'uaŋ]	(石炭を掘る)	免銭	[mẽɕĩ]	(無料)
名姓	[mĩãɕĩ]	(姓名)	人民	[ɭinmĩ]	(人民)
農民	[ɗɔŋmĩ]	(農民)	一粒	[ɕipɗiap]	(一粒)
米籠	[ɓiɗua]	(米籠)	詈人	[ɗueɾɔŋ]	(女性の喧嘩)
笠仔	[ɗueʔa]	(笠)	老板	[ɗaupan]	(社長)
忍耐	[ɭimnãĩ]	(忍耐)	頭脳	[t'aunãũ]	(頭脳)
推拿	[t'uinã]	(按摩治療)	努力	[nũɭit]	(努力)
依頼	[iɗai] →	[inãĩ] (依頼)	欄着	[ɗanɕa] →	[nũãɕa] (囲う)
月亮	[ɠeʔɲũ]	(月)	牛公	[ɠukaŋ]	(雄牛)
門牙	[mẽɠe]	(前歯)	十五	[tsapɠɔ]	(十五)
我	[ɠua]	(わたし)	阮	[ɠun]	(私たち)
工藝品	[kaŋɠep'in]	(工芸品)	行業	[haŋɠiap]	(業界)
方言	[hɔŋɠian]	(方言)	較勢食	[k'aʔɠauɕiaʔ]	(食通)
銀行	[ɠunhaŋ]	(銀行)	外国人	[ɠuakɔklaŋ]	(外国人)

原料	[ŋũãŋãũ]	(原料)	兩個	[nẽŋẽ]	(二人)
替換	[t'uiŋũã]	(交替する)	前後	[ɦiaŋãũ]	(前後)
午后	[ŋõau]	(午後)	五方	[ŋõhɔŋ]	(東西南北中)
硬幣	[ŋĩpe]	(コイン)	雅座	[ŋãtso]	(お座敷)
挾菜	[ŋũẽʔts'ai]	(お菜を取る)	豆莢	[tauŋũẽʔ]	(莢豆)

しかし,厦門方言についての先行研究は数多くあるが,朱新建1992で指摘したように，厦門方言の頭子音b,d,gは入破音ɓ,ɗ,ɠであるとの記述はそれまでなかったのである。筆者は1986年に研究生として九州大学文学部言語学科に留学したときに，厦門語の頭子音についてレポートを書いたことがある。言語学の勉強と訓練をしたいから,中国の大学の講師職をやめて私費で日本にやってきたのであるが,毎朝晩新聞配達をしながら九大の言語学研究室に通ったが,取り上げたテーマはなんと厦門に10年間もいながら全然留意していなかった厦門語の頭子音の研究である。厦門の生まれではなかったが,1975年に厦門大学日本語学科に入学し,1980年に厦門大学大学院の現代日本語専攻で勉強し,そのあとは日本語の講師になったが,足掛け厦門には10年間いたことになる。ところで大学ではほとんど共通語の北京語だったし,町に出ても北京語が通用するので,厦門語は聞いて分かる程度で,簡単な会話しかできなかった。ただ,厦門語話者の同窓生が何人もいたが,なぜ彼らがわたしたち「内地人(内陸部の人)」よりはやく日本語を覚えてしまうのか，逆に日本語の発音はクセがあるなど不思議に思ったことがある。1988年に九大から名大の大学院に入り,厦門語の音声研究を修論のテーマにして研究を続けた。丁度その時期前後して来日した厦門大学の同僚や教え子が数人居たので，彼らは皆厦門生まれでボランティアでインフォーマントになってくれたおかげで,なんとか修論をまとめることができた。彼らに厦門語を教えてもらうなかで,じっくりと問題の発音を観察できた。これはb,d,gではない。ɓ,ɗ,ɠだ。なぜなら,筆者の母語(朱新建1995『中国語永州方言の音声』をご参照)にはp,p',bがあるからである。厦門語のbは筆者の母語のbとは違う。そして,厦門語話者の日本語のバ,ダ,ガ行音の発音に問題点が多い。日本語と同じb,d,gが厦門語にあるなら問題がないはず。たいした発見ではないかもしれないが,厦門語のb,d,gはɓ,ɗ,ɠであると解釈できたときにすごい喜びがあった。北京で一年間言語学を教えてくださり,九大で一年半指導してくださった早田先生には言語学の面白さを教わり,心から感謝している。先生の期待に答えられていないかもしれないが,地味に研究を続けていくつもりである。

厦門方言の入破音については朱新建1992と同1995などで述べたが,前述の1.と2.にも触れた。ただ,筆者の厦門方言の入破音の研究は厦門市内の厦門語話者の音声に基づいているため,音声の材料は限られている。厦門郊外県,さらに福建省南部の農山村地帯へ閩南方言の調査を広げていけば,もっと多くの入破音の材料が集まるはずである。台湾の閩南方言の調査が必要であるし，そして,福州を中心とする閩北方言には入破音が存在するかどうかの調査も必要である。歴史上,同じ越の

地，東甌の地で発展してきた閩方言圏と呉方言圏との関係究明にも力を入れていかなければならない。

6. おわりに

これからの研究は入破音のɓ, ɗ, ɠと破裂音のb, d, gの比較が必要になってくるが，ただ，聴覚印象や調音の内省と自覚で説明するだけでは意を尽くさないものがある。科学の進歩につれて音響音声学は突飛猛進の時代を迎えたので，音響音声学の科学分析による入破音の記述は研究課題の一つになってくるであろう。

入破音は人類言語の最古の音声の一つであると位置づけをしているが，当面は中国語の閩方言圏と呉方言圏の入破音の研究に注目し，古代百越との関連性の研究などにも注目して中国語の入破音の研究を続けていきたい。

なお，この論文は平成10年度古川学術研究振興基金研究費の受領によるものである。

参考文献

趙元任，1935，『中国方言当中爆発音的種類』，歴史語言研究所集刊第五第四分，商務印書館

梁猷剛，1958，『海南島海口方言中的吸気音』，中国語文，1958年1月号

橋本万太郎，1978，『言語類型地理論』，弘文堂

橋本万太郎，1981，『現代博言学』，大修館書店

服部四郎，1984，『音声学』，岩波書店

游汝傑，1984，『老派金山方言中的縮気塞音』，中国語文，1984年第5期

雲惟利，1987，『海南方言』，澳門東亜大学

城生佰太郎，1988，『音声学』，アポロン音楽工業株式会社

鄭張尚芳，1988，『浙南和上海方言中的緊喉濁塞音声母ʔb, ʔd初探』，呉語論丛，上海教育出版社

朱 新建，1992，『厦門語と日本語の音声の比較ー厦門語話者の日本語発音の習得に視点をおいて』
名古屋大学人文科学研究第21号

鄭張尚芳，1995，『浙西南方言的tɕ声母脱落現象』，呉語和閩語的比較研究，上海教育出版社

朱 新建，1995，『中国語海口・文昌方言に見られる入破音についてー厦門方言との比較研究』
愛知学院大学教養部紀要第43巻第1号

朱 新建，1996，『現代厦門語の子音体系に関する一研究ー日本語との比較』
愛知学院大学教養部紀要第43巻第3号

陳保亜，1996，『語言接触与語言聯盟ー漢越(侗台)語源関係的解釈』，語文出版社

付録一：　参考訳文

Ⅰ.『中国方言当中爆發音的種類』, 趙元任1935

「中国語の方言の中の破裂音の種類」, 趙元任1935著, 朱新建訳

Ⅱ.『海南島海口方言中的吸気音』, 梁猷剛1958

「海南島海口方言に見られる入破音」, 梁猷剛1958著, 朱新建訳

Ⅲ.『老派金山方言中的縮気塞音』, 游汝傑1984

「老派の金山方言に見られる入破音」, 游汝傑1984著, 朱新建訳

Ⅳ.『浙南和上海方言中的緊喉濁塞音声母?b, ?d初探』, 鄭張尚芳1988

「浙江省南部と上海方言に見られる入破音?b, ?dの研究」, 鄭張尚芳1988, 朱新建訳

付録二：　中国語入破音をみる歴史地図

中国社会科学院主宰・譚其驤主任編集, 1982,『中国歴史地圖集』(中国地図出版社出版)

Ⅰ. 商時期全図	『中国歴史地圖集 第一冊』より
Ⅱ. 西周時期全図	『中国歴史地圖集 第一冊』より
Ⅲ. 春秋時期全図	『中国歴史地圖集 第一冊』より
Ⅳ. 戦国時期全図	『中国歴史地圖集 第一冊』より
Ⅴ. 戦国時期楚越図	『中国歴史地圖集 第一冊』より
Ⅵ. 秦時期全図	『中国歴史地圖集 第二冊』より
Ⅶ. 秦時期淮漢以南諸郡図	『中国歴史地圖集 第二冊』より
Ⅷ. 西漢時期全図	『中国歴史地圖集 第二冊』より

付録一：参考訳文

参考訳文1㊟：　『中國方言當中爆發音的種類』(1)

中国語の方言の中の破裂音の種類

趙元任①

破裂音は調音部位からの研究と，調音方法からの研究とがある。中国においてのほとんどの方言にみられる破裂音は例外なくp-, t-, k-の部位に属する。舌尖の特に後寄りのt(即ち[ʈ])はほとんど破擦音の声母が，方言によっての一種の変化である。例えば，「昭」は一般の方言においては，[tʂɑʊ]であるが，皖，贛，鄂三省②の境に接している各地では往々にして[ʈɑʊ]と読むことがみられる。このほか，舌面の破裂音[ʗ]，[c]のような音はほとんど音素kが狭母音(歯音或いは円唇音)に影響されて調音された音色である。例えば，山東省中部と東部では，「鶏」は[ʗi]，国語③は[ʗʷi]である。いずれにせよ，発音部位の問題はわりと簡単なので，これを論外にし，本稿は中国語の方言にみられる破裂音の各種の調音方法を議論することにする。そして，便宜上，ここでは唇音p, bなどを例にとり，舌尖音，舌根音を概略し，発音部位の違いにより発音方法も違う時に限りその都度取り上げることにする。

周知のように，国語の音声には[ɓ]と[pʰ](2)の二種類の破裂音がある。すこし方言を研究した方には厦門語に[b]があることを知っているかもしれない。例えば「馬」[be]。国語の二種類は清音(声帯は楽音を発しない)であり，第三類は濁音(声帯は楽音を発する)である。細分類すると，少なくとも以下の十種類に分けることができる。

第一類	p	上海:「班」pɛ	第三類	pʰ	北京「坡」pʰɔ	第七類 bɦ	寧波「牌」bɦa
第二類	ɓ	北京:「班」ɓan	第四類	ɓʰ	南昌「怕」ɓʰa	第八類 b	厦門「帽」bo
			第五類	px	太原「怕」pxa	第九類 ʼb	松江「飽」ʼbo
			第六類	pɦ	江陰「爬」pɦo	第十類 ʔb	文昌「板」ʔban

第一第二類は無気の清音である。第一類は強いもので，第二類は弱いものである。例えば，上海では父親のことを「伯伯」[pɑpɑʔ]，北京では「爸爸」[ɓɑbɑ]である。ここの[p]と[ɓ]の強弱はかなり異なる。上海語話者或いは他の呉方言話者のほとんどがフランス語の無気音p, t, kを習うとき，自分の方言のp, t, kで代用しても差し支えない。例えば，capitaine [kapitɛi:n]を発音しようとするとき，自分の方言の「隔壁個発」[kɑpɪkətəŋ]という言葉を思い出せばよい。少なくとも声母はほとんど差はないのである。しかし，北京語話者は「隔壁的発子」[ɡɤɓidə ɖʌŋ ɖʂʅ]を用いて模範発音としてまねをすると，そりゃ話にならない。それだと，capitaineが[ɡaɓidɛi:n]になってしまう。このような発音では，間違いなく英米系のフランス語の先生に直される。なぜなら，彼らはどうしてもcapitaineを有気の[khaphithɛ:n]と発音せずにいられないからである。しかし，今度は学生のほうは納得しないので，先生と言い合いになり，互いに相手が間違っていると言い張るのである。どっちの言い分も正しい。なぜならどちらも間違っているからである。学生の読み方が柔らか過

ぎて，先生の読み方が有気しすぎたからである。

この二種類の音は環境によって変化も違う。第二類は母音の間では軽声となると，往々にして濁音になる。第一類は安定している。例えば，「爸爸」[ˈb̥a ba]の二番目の「爸」の声母は濁音の[b]になる。上海の「伯伯」[pɑ pɑʔ]は二字とも強いからそうであるが，「三百廿」[ˈsɛpɑ ˈɳɛ]の中の軽声「百」の発音はやはり[p]であり，有声化しない。

第三類，第四類，第五類，第六類は有気の清音である。第三類の[ph]は強い有気音である。例えば，北京の「怕」[phɑ]。第四類は弱い有気音である。例えば南昌の「怕」[b̥hɑ]。第五類は強い摩擦の有気音であり，例えば太原の「怕」[pxɑ]。第六類は強い有声の有気音である。例えば上海の「牌」[pɦɑ]。

第三類は安定していて，どんな環境にあっても有気の働きは失わない。たとえまれにしかない極端に軽声と声調の区別する北京語においても，ごく僅かな幾つかの特別な言葉にだけ軽声の関係で有気の働きを失う現象が見られる。例えば，「糊塗」は，[ˈxuthu]>[ˈxud̥u]>[ˈxudu]で，「枇杷」或いは「琵琶」は，[ˈphipha]>[ˈphib̥a]>[ˈphiba]である。しかし，これはごく少数の例外であり，当然の変化の規則だと認められない。例えば，「外頭」[ˈuaɪthoʊ̯]は[ˈuaɪdoʊ̯]と言う人はまずない。

第四類は第三類とは聴覚上たいした区別はない。しかし，他の音の環境にあると，その変化はかなり異なってくる。上述のように，第三類は安定しているが，第四類は違う。それは二字語の二番目にある場合有声化して純有声音(無気)の[b](第八類)になるだけでなく，そして[b]とは自由異音(variphone)(3)になっている。例えば，「偏僻」は北京は[phiɛnphi]，南昌では第二の声母，或いは第一第二声母とも無気の純有声音なる。言い換えれば，[b̥hiɛnbi]と言うか，[biɛnbi]と言うかである。

第五類[px]は破裂に摩擦(4)を加えたような複合音と認めてよいようである。舌根の部位ではまるで一種の破擦音(affricate)である。私はこの類を有気の破裂音の欄に入れたのは他の方言の普通の有気破裂音に相当するからだけでなく，音声学上の理由もあるからである。山西省のかなりの方言の中では，例えば，太原では，この口唇摩擦の有気音[x]は円唇の歯音となると，ドイツ語の ichの[ç]になる。例えば「皮」の[pçi]は，「怕」[pxɑ]の[x]とは違う。しかし，この[ç]だけでは必ずしも一種の有気音だとは限らない。例えばフランス語の pied は通常[pçe]と表記しているが，この音は山西各方言の「撇」[pçe]の音とは全く違う。ここの差はこうである。つまり，フランス語の[p]は第一類で，有気音とは対立している。piedのiは[j]で，[p]との同化で清音[ç]になったが，これは声門が全開する[ç]ではない。[p]は無気であるため，破裂後も声門はやはりやや緊縮しており，[ç]の調音に必要な息のほとんどは口腔にある息なので，聴覚上はすこしも普通の有気音には聞こえない。山西の[pxɑ]，[pçi]の[x]，[ç]の場合は，これこそが声門全開の音である。従って，この類の字の発音では，有気は主要な働きであり，舌根と舌面の摩擦は偶然である。

この類の破裂音は揚州以東の方言においては時に普通の有気音と併存することがある。例えば，如皋の「托」[thɔʔ]，「毒」[txɔʔ]はその例である。

第六類は面白い類である。これがつまり呉方言の[p],[ph],[pɦ]の中の第三類である。この類は普通,有声音の[b]の一種であるとされているし,そして聴覚上も有声音(5)に聞こえる。しかし,ある上海の人はbig boyを[pɦɪkpɦɔɪ]と言ったとすると,英国人や米国人の耳では沢山の有声音の有気を聞き取れないだけでなく,有声音[b]そのものもほとんど聞き取れない。呉方言の「濁音の無濁説」(有声の非有声音)については劉 復④が音響スペクトログラムで証明して最初に私に教えてくれたのである(6)。もう一つ,この音を[b]のように聴こえるのは, この音が語の間にあるときに本当の[b]となるからである。例えば,上海の「別」は[pɦɪʔ]であるが,「特別」では[tɦəbɪʔ]となる。これは二字目の声母は清音の有声有気から有声の無気音になるが, 第一字「特」[tɦə(ʔ)]はやはり第六類の破裂音である。呉方言の第一類破裂音の[p]が母音に挟まれても有声化しないことについては前述のとおりである。

第七第八第九第十類は本当の有声音であり,換言すれば,破裂する前に声帯がすでに振動して楽音になっているからである。第七類[bɦ]は有気の有声音である。これは第六類の[pɦ]と同じ区域の方言(呉方言)に見られ,同じ字に見られる。この類の音はいかなる方言にも独立した音素であるとはここで言えない。私の観察の限りでは,これはいつも第六類の[pɦ]と異音となっている。例えば,寧波の「牌」は時に[bɦa],時に[pɦa]と読む。前後に母音に挟まれると[bɦ]が無気の[b]になり,第六類とは同じである。

第八類は普通の弱い有声音である。前述の他の類での変化が見られる以外は,時には独立した音素となる。厦門語においは多くの他の方言の[m]に相当する。例えば,厦門語の「帽」[bo]は国語の[maʊ]である。前述の第四類の時に,南昌の[b̥h]は有声音の[b]とは自由異音の関係にあると触れた。南昌地域の他の江西方言では,有気の無声破裂音は専ら無気の純有声音と読む。例えば,「派」は南昌では[b̥haɪ]或いは[baɪ]と読むが,都昌と湖口ではいつも[baɪ]である。狭母音の前では,舌根の破裂音はまるで通音(継続音)continuantのようになる。例えば「快」は南昌では[g̊huaɪ]と[g̊uaɪ]の二通りの読み方があるが,都昌では[uaɪ]と読む。

第九類は有声音の[b]であると同時に声門が少し緊縮する働きが見られる。ここで仮に['b]で表記する。この類の音は上海近くの小さい地域に見られ,上海市内には見られない。例えば,「鮑」は浦東と松江は['bɔ]で,上海は[pɔ]である(第一類)。このほかは浙江省の永康でこの類の音に出会ったことがある。

第十類は第九類とそう違わず,ただ喉頭の緊縮はもっと強く,有声の度合いも強い。だから,もし第九類は弱い音とすれば,第十類はそれに相当する強い音である。この類の音は聴覚上も発音上も一つの特徴があることがわかる。すなわち,破裂するときに声門のところで緊縮するため,出てくる息が少なすぎて,大きく開いたため容量の増えた口腔に息が満たさないので,結局息が逆に外から口腔へとすこし吸い込まれて,ある種の高音の音色が発生することになる。この事実は曾て 李

方桂⑤が海南島方言を調査しているときに音響スペクトログラムで証明済みである。彼の得た曲線上では,通常のいわゆる「破裂」の部分は，曲線は外へ動かないばかりか,確かに奥へ動いたのである(これは電球の破裂にたとえることができる)。今まで調査した中国の方言の中では，この類の音は海南島の東北部にしか観察されない。例えば,「氷」は文昌では[ʔbeŋ],浦東では['biŋ],上海では[piŋ]である。

この第九第十類の音の見方は非常に意味のある状況がある。つまりすべてこの音のある方言では,例外なく唇音と舌尖音に見られ,舌根音に見られない。この類の音は他の方言[p],[t],[k]に相当する音であり,この特類の声母のある方言では，常に['b],['d],[k]或いは[ʔb],[ʔd],[k],三番目はいつも普通の[k]である。ここの理由は難しくない。舌根と軟口蓋から声門までの空間は狭く,口腔の空間のわりと余裕のある[b]と[d]のようにかわったことができず,声帯がやや振動すると,そのわずかな空間はただちに息が一杯になり正圧力になってしまう。だから,空間も時間もなく,第九類のようなぶら下げる聴覚印象と第十類のような奥へと「破裂」する聴覚印象がない。大体舌根の破裂音は上述のような変わった事をしなくても有声化すること自身むずかしいものである。

あと二種類の破裂音は中国の方言にまた観察されていない。ひとつは喉頭閉鎖の清音「pʔ],[tʔ],[kʔ],例えば,アメリカインド語のChipweyan語に観察される音。中国南部方言の入声の閉音節の末子音はこの音と比較的に近い類である。例えば,「急」は広州では[kɑʊp]。短い語或いは文の末尾にあると,聴覚上は第一類の[p]とはほとんど差がなく,ただ破裂しないだけである。しかし,母音が始まる語が後続すると,連読してやや喉頭閉鎖があり,後続する母音との融合を阻止する。例えば,広州の「乞児」は[hɑt(ʔ)i]であり,[hɑti]とはならない。この喉頭閉鎖がアメリカインド語のように強くなく,[hɑtʔi]とはならない。そうでないと広東の音らしくない。

もうひとつ中国では見られない破裂音は英語や日本語のような有気と無気の間に介する清音である。イギリス人が「北平」を言うとき,中国人は聴覚上往々にして彼がわざと「丕兵」のように逆にものを言うように思う。英文のpeak, take, Kateの声母は当然speak, stake, skateのsのあとの音より息がやや多い。これは中国の英語の学生は気が付かないものはないが，しかし,前者は十分な有気音ではなく，後者も全くの無気音でもない。例えば，中国風の読み方で[ph]eak,[th]ake,[kh]ateとs[p]eak, s[t]ake, s[k]ateを言うと,その結果は「非英語」になってしまう。英文の二種音とも有気と無気の間に介する音であり,このような破裂音は中国ではまだ観察されていない。

総括すると中国の方言に見られる破裂音は次のとおりである。

第一類	p t k	第三類	ph th kh	第七類	bɦ dɦ kɦ
第二類	ḅ ḍ ǵ	第四類	ḅh ḍh ǵh	第八類	b d g
		第五類	px tx kx	第九類	'b 'd (欠)
		第六類	pɦ tɦ kɦ	第十類	ʔb ʔd (欠)

㊟:『趙元任年譜』(趙 新那・黄 培雲編,1998,商務印書館)によると,『中國方言當中爆發音的種類』は当時趙元任43歳,南京在住の年に,趙元任著,Types of Plosives in Chinese,Proceedings of the 2nd International Congress of Phonetic Science,London:1935,pp.106-110の趙元任本人の中文訳である。当時は『中研院史語所集刊』第5本,第2分:515-520。拙訳は中華書局1987版の,『歴史語言研究所集刊 第五本,第四分p515-520』より訳出。

原文脚注:

(1):英文原稿は蓄音機レコードでロンドンで開かれた第二国際音声学会で読み上げた。(原文p515,(1))

(2):一般的には有気音を「'」で表記するが,本稿は「'」を有気の弱い英文の[p']に用いるので,仮に[h]で中国語の方言の有気音を表記することにする。(原文p515,(2))

(3):普通,音素(phoneme)という名詞を用いるのは,一つの音が違う環境に置かれると音質がやや変わる音を指す言葉である。例えば,「里」[li]の[l]はやや前で明るい音であるが,「魯」[lu]の[l]はやや奥で暗い音である。しかし,このような子音の変化は母音によって違うもので,同じ音素であると認めている。しかし,場合によって音声学上から全く違うと見ている二つの音は,方言によっては自由に互用でき,必ずしも音の環境によるものではない。例えば,長江流域のかなりの方言においては,同じ「魯」でも,自由に[lu]あるいは[nu]と言っても地元の人々にはなんら区別を感じない。これが自由異音(variphone)という。(原文p516,(1))

(4):広義的にいうと,当然有気の[h]も(喉頭部的な)摩擦音である。しかし,有気の働きは少なくとも中国語においては一種の特別な働きであり,ここでいう摩擦音は口腔の摩擦音[x],[ç],[s],[f]などである。(原文はp517,(1))

(5):例えば高 本漢の(『中国音韻学の研究,p260)。しかし,氏は有声音の有気を認めている。Edkindsはこれらの音を斜体のp,t,k,と表記し,言葉の中間に位置するときに,b,d,gと書く。J.Edkinds,Grammar of the Shanghai Dialect.2nd ed.,1868,pp1-2を参照。(原文はp517,(2))

(6):発表の出所は残念ながら不祥であるが,大体1925年前後の北京のどれかの雑誌に載っている。(原文はp518,(1))

訳注:

①:趙元任,言語学者,作曲家。

1892年11月3日天津に生まれ,1982年2月25日にアメリカマサチューセッツに逝去。享年90歳。ハーバード大学教授,清華学校研究院(清華大学の前身)四人導師の1人,中央研究院歴史語言研究所研究員兼語言組主任,ハワイ大学,Yale大学,ハーバード大学, カリフォルニア大学教授などを

じである。ただ，声母体系における地位，異音，古音との対応関係などでは，この数県の[ɓ][ɗ]の分布は海口の[ɓ][ɗ]の分布とはある程度違いが認められるが，ここでは割愛する。

注：

㊟『海南島海口方言中的吸気音』(梁猷剛，1958，『中国語文』1958年1号)p27～p28より訳出

①著者がここでいう吸気音は入破音implosiveの術語の間違いである。以下同。

②原文の注。海口方言の声調の種類，調値はそれぞれ陰平˨˩23，陽平˧˩22，上声˨˦˨212，陰去˧˥24，陽去˧˧33，陰入˥5，陽入˧3。

③原文の注。「佛」は[ɗut˧]一種類の発音しかない。これは「佛」は外来語の音訳だと関係があるかもしれない。

参考訳文Ⅱ㊱:　　『海南島海口方言中的吸気音』

海南島海口方言に見られる入破音

梁猷剛

海南島海口市の方言は中国語の地域方言の1つであり，音声の構成,基本語彙と文法構造から見れば,大体閩南方言の系統に属する。しかし,音声の面で突出の特徴が1つある。それが即ち声母としての子音[ɓ]と[ɗ]が有声の吸気音①である。

一般の言語の中では,通常の発音はほとんど呼気音(呼気した気流で形成する音)である。中国語の中でも,大多数の方言はそうである。所謂吸気音は即ち気流を吸入して形成する音のことである。通常の呼気音を調音する際に,ただ呼気の動作を気流を吸入する動作にさえ改めれば,それで吸気音になる。アフリカの一部の言語には,例えば,Hottentot語とKaffir語は，吸気音は一般的であるが,しかし,中国語の方言の中には吸気音は非常に稀である。

凡そ気流を吸入して形成する音はどれも吸気音だと言える。したがって,吸気音の種類は様々である。普通の吸気音は吸気だけであり,同時に呼気が伴われない。吸入した気流は普通口腔を通って咽頭に達し,更に気管に入ることができるが，しかし,咽頭に達したときの気流はすでにかなり弱くなったため,喉頭部の奥にある声帯は簡単に振動しないのである。よって,一般の吸気音はほとんど無声音である。例えば,喜びを表す時の[l̥<]。痛い時の[f<]或いは[ɸ<]。

海口方言の[ɓ]と[ɗ]は普通の吸気音とは異なる。これらは発音するとき,口腔内で吸気をする一方,声門で喉頭の閉鎖を破って呼気を出すのを同時に行うので,吸気をしながら呼気をする特殊な吸気音を調音される。このような,口腔で吸気をし,喉頭で呼気をする発音方法は全く可能である。ただ,気流を吸入するときあまり深く吸入せず，気流が口腔後部まで流れたら止めさえすれば,喉頭部深くに位置する声帯は完全に吸入気流の影響を受けずにすむ。そして,声帯が気管からの呼気の振動によって濁音が発せられる。このように,吸入した気流と呼気が口腔と喉頭で互いに衝撃しあい，更に声門がしっかり閉じてから破裂することにより振動し，このような吸気音に特殊な音色を響かせたわけである。

海口の[ɓ]は吸気の,喉頭閉鎖を伴う有声の両唇破裂音である。閉鎖を形成する際に,両唇がしっかりと閉じると同時に,声門もしっかりと閉じる。閉鎖を破るとき,両唇が破裂して気流を吸入する。この吸入された気流は閉鎖を破るときに両唇より口腔に進入し，両唇吸気の破裂音を調音できてからは深入りせず,そして両唇の閉鎖が破り,口腔より吸気すると同時に，しっかりと閉じた声門も突然裂開し,一筋の小さな透き間を残して,気管からの呼気の気流で声帯を衝撃させて濁音になる。

海口の[ɗ]は吸気の,喉頭閉鎖を伴う有声の舌尖歯茎破裂音である。閉鎖を形成する際,舌尖が上の歯茎につけると同時に,声門もしっかりと閉じる。閉鎖を破るとき,舌尖が急に上の歯茎から離

れ，気流を吸入する。この吸入された気流は閉鎖を破るときに舌尖と歯茎の間より口腔に進入し，舌尖歯茎の吸気の破裂音を調音できてからは深入りせず，そして舌尖歯茎が閉鎖を破り，口腔より吸気すると同時に，しっかりと閉じた声門も突然裂開し，一筋の小さな透き間を残して，気管からの呼気の気流で声帯を衝撃させて濁音になる。

[ɓ[と[ɗ]の調音方法は基本的に同じであるが，調音部位が異なるだけである。調音部位が異なるため，吸気量も異なってくる。[ɓ]は両唇音であるので，両唇が口腔の外にあり，吸気量が多く，吸気現象も顕著である。[ɗ]は舌尖歯茎音であるので，舌尖歯茎が口腔の内部にあり，吸気量が少なく，吸気現象もそれほど顕著ではないのである。

[ɓ]と[ɗ]は海口方言では声母としてのみ現れず，音節の最初にしか現れないのである。

[ɓ]は海口方言の中では唯一の両唇破裂音の声母である。声母として(即ち音素として)，呼気無声の両唇破裂音[p]となることがある。連続した二つの音節の声母がいずれも[ɓ]である場合，往々にして第一音節の声母が[ɓ]で，第二音節の声母が[p]となる。例えば，「包辦」[ɓau˧ɓaŋ˧→ɓau˧paŋ˧]②，「宝貝」[ɓo˨ɓue˧→ɓo˨pue˧]，「辨駁」[ɓin˧ɓo˥→ɓin˧po˥]，但し，両音節とも[ɓ]である場合もある。若い世代の海口人で，他の方言(例えば，広州語，北方語)が話せる人は，往々にして[ɓ]を[p]と発音する。例えば，「幇」は[ɓaŋ˨˩]ではなく，[paŋ˨˩]であり，「並」は[ɓeŋ˨˩]ではなく，[peŋ˨˩]である。上述のように，海口方言では，[p]は[ɓ]の異音である。しかし，なぜ吸気の有声両唇破裂音[ɓ]の異音は呼気の無声両唇破裂音[p]であり，呼気の有声両唇破裂音[b]ではないのか。この現象は次のように解釈できよう。(1)海口方言では，[b]は呼気の有声唇歯摩擦音[v]の異音である。もし声母[ɓ]の異音も[b]であると，音声上の混乱を引き起こす。(2)海口方言の[ɓ]は他の中国語方言(例えば，広州語，北方語)の[p]に対応しているので，海口人(特に青少年)の中に北方語や広州語が話せる人はかなり多いため，海口の[ɓ]はこれら他所の方言の影響で，[p]となることが考えられる。

[ɗ]はまた異なる情況である。海口方言では，舌尖歯茎破裂音には吸気有声の[ɗ]があるほか，呼気無声の[t]がある。声母として(即ち音素として)，[ɗ]の[ɓ]のように呼気の無声破裂音となる可能性がない。なぜなら，地元の人々の語感では，[ɗ]と[t]の区別は明らかであるから。例えば，[ɗoŋ˨˩]は「東」で，[toŋ˨˩]は「中」で，混同してはならない。海口方言では[ɗ]の異音が認められない。

海口方言では，声母が[ɓ]の字が以下のとおりである。

(1)古音声母が「幇」で，現代北京語の音声では[p]のもの。海口方言は全部[ɓ]と読む。

波[ɓo˨˩]	把[ɓa˨˩]	布[ɓu˨˩]	拜[ɓai˨˩]
閉[ɓi˨˩]	杯[ɓɔi˨˩]	堡[ɓau˨˩]	標[ɓiau˨˩]
班[ɓaŋ˨˩]	変[ɓin˨˩]	賓[ɓin˨˩]	本[ɓun˨˩]
幇[ɓaŋ˨˩]	崩[ɓɔŋ˨˩]	氷[ɓeŋ˨˩]	丙[ɓeŋ˨˩]
八[ɓi˥]	別[ɓit˧]	撥[ɓuak˥]	

必[ɓit˥]　　博[ɓɔk˥]　　碧[ɓek˥]

(2)古音声母が「並」で,声調が仄声であり,現代北京語の声母が[p]のもの。海口方言は全部[ɓ]と読む。

部[ɓu˧˩]　　敗[ɓai˧˩]　　幣[ɓi˨˦]　　暴[ɓau˧˩]

辦[ɓaŋ˧˩]　　辨[ɓin˧˩]　　笨[ɓun˧˩]　　並[ɓeŋ˨˦]

拔[ɓuak˥]　　泊[ɓɔk˥]

3)古音声母が「並」,声調が平声で,現代北京音の声母が[p']のものは,海口方言は普通[f]であるが,次の各字だけ[ɓ]と[f]の又読みがある。

爬[ɓa˧˩] [fa˧˩]　　排[ɓai˧˩] [fai˧˩]

牌[ɓai˧˩][fai˧˩]　　賠[ɓue˧˩] [fue˧˩]

脾[ɓi˧˩] [fi˧˩]　　袍[ɓau˧˩] [fau˧˩]

便[illegible] [ɓaŋ˧˩] [fin˧˩]　　盤[ɓua˧˩] [fuaŋ˧˩]

平[illegible] [ɓɛ˧˩] [feŋ˧˩]

4)古音声母が「非」或いは「奉」で,現代北京音の声母が[f]のものは,海口方言は普通[f]であるが,次の各字だけ[ɓ][f]の又読みがある。

「非」声母:

斧[ɓau˨˦] [fu˨˦]　　傅[ɓau˨˦] [fu˨˦]

飛[ɓue˨˦] [fɔi˨˦]　　弗[ɓui˨˦] [fui˨˦]

分[illegible][ɓun˨˦] [fun˨˦]　　糞[ɓun˨˦] [fun˨˦]

方[illegible][ɓaŋ˨˦][faŋ˨˦]　　放[ɓaŋ˨˦] [faŋ˨˦]

幅[ɓak˥]　[fok˥]

「奉」声母:

符[illegible][ɓau˧˩] [fu˧˩]　　吠[ɓui˧˩] [fui˧˩]

肥[ɓui˩˧] [fi˩˧]　　馮[ɓaŋ˩˧] [foŋ˩˧]

佛[ɓut˧˥]③

3)と4)は[ɓ]と読むのは一般的に「説話音(話し言葉,訳注)」であり,[f]と読むのは「読書音(書き言葉,訳注)」で,厳格な区別はない。普段話すときも「読書音」を使うこともあるし(例えば,「脾気不好」[fi˧˩k'ui˨˦vo˧˩ho˨˦]),読書するときも「説話音」を使うこともある(例えば,「与子同袍」[zi˨˦tsi˨˦hɔŋ˧˩ɓau˧˩])。ただ,両者の中では[ɓ-]が多い。

海口方言の声母が[ɗ]であるものは以下の通りである。

1)古音声母が「端」で,現代北京語の声母が[t]であるものは海口方言はすべて[ɗ]である。

躲[ɗo˧˩]　　都[illegible][ɗu˨˦]　　呆[ɗai˨˦]　　低[ɗɔi˨˦]

抵[ɗi˩]　对[ɗui˧˥]　叨[ɗau˧˥]　鬥[ɗɔu˩]

耽[ɗam˧˥]　店[ɗiam˧˥]

丹[ɗaŋ˧˥]　典[ɗin˧˥]　断[ɗuan˧˥]　敦[ɗun˧˥]

党[ɗaŋ˧˥]　登[ɗɔŋ˧˥]　丁[ɗeŋ˧˥]　董[ɗoŋ˧˥]

答[ɗa˥˧]　得[ɗit˥˧]　篤[ɗok˥˧]

2)古音声母が「定」で，成長は仄声で，現代北京語の声母は[t]のものは海口方言ではすべて[ɗ]である。

大[ɗa˧˥]　杜[ɗu˧˩]　怠[ɗai˧˥]　遯[ɗɔi˧˩]

隊[ɗui˧˥]　地[ɗi˧˩]　道[ɗau˧˥]　調[ɗiau˧˩]

淡[ɗam˧˩]

但[ɗaŋ˧˩]　電[ɗin˧˥]　盾[ɗun˧˥]

蕩[ɗaŋ˧˥]　鄧[ɗɔŋ˧˩]　定[ɗeŋ˧˥]

疊[ɗiap˧˩]　敵[ɗek˧˩]　独[ɗok˧˩]

3)古音声母が「定」で，声調は平声で，現代北京語の声母が[t']のものは海口方言は一般に[h]と読むが，以下のものだけ[ɗ][h]の又読みがある。

題[ɗɔi˧˩]　[hɔi˧˩]　涛[ɗau˧˩]　[hau˧˩]

檀[ɗua˧˩]　[haŋ˧˩]　壇[ɗua˧˩]　[haŋ˧˩]

屯[ɗun˧˩]　[hun˧˩]　豚[ɗun˧˩]　[hun˧˩]

飩[ɗun˧˥]　[hun˧˩]　臀[ɗin˧˥]　[hun˧˩]

堂[ɗo˧˩]　[haŋ˧˩]　塘[ɗo˧˩]　[haŋ˧˩]

藤[ɗin˧˩]　[heŋ˧˩]　亭[ɗeŋ˧˩]　[heŋ˧˩]

庭[ɗia˧˩]　[heŋ˧˩]　同[ɗaŋ˧˩]　[hɔŋ˧˩]

銅[ɗaŋ˧˩]　[hɔŋ˧˩]　筒[ɗaŋ˧˩]　[hɔŋ˧˩]

以下各字は，[ɗ]の発音だけである。

屠[ɗu˧˥]　蹄[ɗɔi˧˩]　条[ɗiau˧˩]

甜[ɗiam˧˩]

4)古音声母が「知」で，現代北京語の声母が[tʂ]のものは，海口方言では一般に[ts]と読むが，以下の各字だけ[ɗ]と[ts]の又読がある。

張[ɗio˧˥]　[tsiaŋ˧˥]　帳[ɗio˧˥]　[tsiaŋ˧˥]

脹[ɗio˧˥]　[tsiaŋ˧˩]

着[ɗio˧˩]　[tsiɔk˧˩]　卓[ɗo˥˧]　[tsiɔk˥˧]

琢[ɗue˥˧]　[tsiɔk˥˧]　啄[ɗue˥˧]　[tsiɔk˥˧]

摘[ɗia˥]　[tsɔk˥]　　竹[ɗiɔk˥]　[tsok˥]

このほか,「猪」という字は[ɗu˩˧]と読むのみである。

5)古音声母が「澄」で,声調は仄声で,現代北京語の声調が[tʂ]のものは,海口方言では一般に[ts]であるが,以下の3字だけ[ɗ]と[ts]の又読がある。

箸[ɗu˩˧]　[tsi˩˧]　　滞[ɗi˩˧]　[tsi˩˧]

重[ɗaŋ˨˩]　[tsoŋ˩˧]

6)古音声調が「澄」で,声調が平声で,現代北京語の声母が[tʂʻ]のものは,海口方言は一般に[s]と読むが,以下の各字のみ[ɗ]と[s]の又読がある。

茶[ɗɛ˨˩]　[sa˨˩]　　厨[ɗu˨˩]　[su˨˩]

遅[ɗi˨˩]　[si˨˩]　　錘[ɗui˨˩]　[sui˨˩]

綢[ɗiu˨˩]　[siu˨˩]　　陳[ɗaŋ˨˩]　[sin˨˩]

長[ɗo˨˩]　[siaŋ˨˩]　　腸[ɗo˨˩]　[siaŋ˨˩]

場[ɗio˨˩]　[siaŋ˨˩]

3)4)5)四種類の中で,[ɗ]は「説話音」で,[h][ts][s]は一般に「読書音」であるが,厳格な区別はない。普段話すときも「読書音」を使うこともあれば(例えば,「肚脹」[ɗau˩˧tsiaŋ˨˩]),読書するときに「説話音」を使うこともある(例えば,「着重研究」[tsiɔk˨˩ɗaŋ˨˩ŋin˩˧kiu˩˧])。

要するに,1)古音「幫」声母の字の全部及び「並」声母の仄音字は海口方言では全て[ɓ]であり,古音「並」声母の平音字と「非」,「奉」両声母の字が,極少数は[ɓ]と又読むことがある(「敷」声母の字が[ɓ]と又読むことがない)。2)古音「端」声母の字全部が「定」声母の仄音字と,海口方言ではいずれも[ɗ]と読む。古音「定」声母の中の平音字と「知」,「澄」声母の字で,極少数は[ɗ]と又読む(「徹」声母の字が[ɗ]と又読むことがない)

上述の例のように,海口方言の[ɓ]と[ɗ]は北京語(或いは一般の中国語方言)の[p]と[t]に相当することが分かる。北京語及び一般の中国語方言の[p][t][k]は海口方言の[ɓ][ɗ][k]に対応している。ここでさらに次のことに気が付くことであろう。すなわち,海口方言では吸気の破裂音は唇音と舌尖音のみで,舌根音がない。これは発音の原理から解釈できる。1)舌根音の閉鎖を形成する部位(舌根と軟口蓋)は口腔の後部にあり,破裂するときに口腔の外から口腔の内部へ気流を吸入するのはかなり困難である。2)舌根の閉鎖を形成する部位は喉頭に近く,破裂後に気管から呼出した気流が忽ち声門を通過して舌根と軟口蓋の間に達するため,よって,吸気の舌根軟口蓋破裂音の調音はかなり困難である。

本論文は吸気破裂音[ɓ],[ɗ]が音素と声母として海口方言に存在するのを述べた。海口付近一帯の琼山,文昌,琼東,安定,澄邁などの県の方言にも[ɓ][ɗ]が存在する。この数県の方言は海口方言と非常に似ており,調音上,即ち発音部位,発音方法では,この数県の[ɓ][ɗ]は海口の[ɓ][ɗ]とは同

歴任し，1945年にアメリカ言語学会会長に選出され，1981年に北京大学の名誉教授称号を授与された。主要著作は『現代呉語の研究』，『語言問題』，『中国語の文法』など多数ある。作曲では劉半農作詞，趙元任作曲の『教我如何不想他(How Can I Help But Think of You)』などは今でも歌われているほどの名曲である。

②：皖は安徽省，贛は江西省，鄂は湖北省のそれぞれの別称。

③：ここの国語とは当時，趙元任が中心になって推し進めている中国語標準語のことである。

以下同。

④：劉 復は劉 半農のこと。言語学者，作詞家。

1924年3月『四声実験録』(上海群益書社)を出版し，1925年3月フランス国家文学博士を獲得。江蘇省江陰県生まれ。

劉氏三傑：

劉 半農(1891～1934)，言語学者，作詞家。

劉 天華(1895～1932)，北京大学音楽教授，二胡演奏家，琵琶演奏家，バイオリニスト，作曲家。

劉 北茂，二胡演奏家，作曲家。

⑤：李 方桂(1902～1987)，言語学者。1929年10月広州で中央研究院歴史語言研究所語言組が正式に成立したときの初代研究員の1人。当時の語言組は主任の趙元任研究員，羅常培研究員と李方桂研究員三人であった。

参考訳文Ⅱ㊟:　　『老派金山方言中的縮気塞音』

老派の金山方言に見られる入破音

游汝傑

金山県は上海市の西南部に位置し，南は杭州湾を臨み，北は松江，東は奉賢，西は浙江平湖，嘉善とそれぞれ隣接している。本論文は15名の60歳以上の被験者(各人民公社1名ずつ)の発音を根拠に，金山県方言に見られる「縮気塞音(入破音，以下同。訳注)」(implosive)について討論したい。

老派の金山方言では，中古音の幇声母にはp，?bの二種類の発音があり，中古音の端声母にはt，?dの二種類の発音がある。?b，?dの発音の原理は次のとおりである。閉鎖を形成する段階では喉頭が閉鎖し，両唇が閉鎖を形成するか舌尖と上の前歯が閉鎖を形成し，喉頭が下降する。喉頭の下降により，閉鎖が持続する間，口腔の空間が増大し，空気が薄くなり，気圧が下がる。閉鎖を破る際に声門が緊縮するため，肺部から流れ出る気流が少なすぎて，喉頭下降により増大した口腔の空間を充満することができないために，自然に口腔外の気圧のやや高い気流を吸入し，声帯を振動して濁音を発する。

この二つの音は国際音声記号(IPA1979年改訂)のɓとɗに相当する。中国国内の言語学著作はほとんどこの音を?b，?dと表記し，「先喉塞音xianhousaiyin」(pre-glottalized stop)と称している。他にこの音を吸気音と称しているが，これは誤りである。吸気音(click)または「搭嘴音dazuiyin」とは別の異なる種類の閉鎖音である。本論文は『方言』雑誌に載せてある『国際音標』の訳文に従い，この二つの音を「縮気音(入破音，以下同。訳注)」と称することにする。表記は慣例にのって?b，?dとする。

『方言調査字表』のなか，幇，端の二声母には少なくとも一つの調査地では?b，?dと読むのがあり，合計137字で，全体の64%を占めている。次に挙げておく。

果攝:多朶躲｜假攝:巴芭疤爸｜遇攝:補譜布布妬蠹肚都賭｜蟹攝:貝呆戴帯拜擺閉底低抵帝杯輩背堆對｜止攝:碑卑悲｜效攝:褒保堡宝報刀叨祷島倒到包胞飽豹爆膘標刁貂雕釣吊｜流攝: 兜斗抖陡鬥｜咸攝:耽担胆点店｜山攝:丹単旦扮八班頒扳板版鞭編変憋鼈邊蝙扁匾遍顛典般搬端短半絆断斷鍛鉢撥掇｜臻攝:彬賓檳殯筆畢必不｜宕攝:博｜江攝:邦｜曾攝:登灯等凳得徳北逼｜梗攝: 打百柏伯迫碧壁頂鼎｜通攝:卜東董懂凍棟冬篤督

これらの字音の韻母は異なるため，その声母が入破音と発音される頻度も違う。主母音がɔ o e u iである字を統計してみると，主母音がɔである(即ち效攝字)字が入破音と読まれる頻度が最も高い。頻度高低の順番はɔ o e u iである。この統計の結果は次のことが言える。金山方言の入破音は声母と韻母の関係が密接である。閉鎖を破るときに口腔共鳴器の空間が大きいほど，その声母が入破音に発音されやすい。上記五つの母音が発音される時の口腔空間容量の大きさの順番は丁度ɔ>o>e>u>i のとおりである。

分布の地域をみると，金山県北部と松江県隣接している朱徑，新農，松隠，亭新，朱行の入破音の比例は最も高く，その次は中部の呂巷，干巷，張堰である。浙江と隣接している西部と南部は或いは低く，例えば，漕徑，山陽，銭墟，廓下がそうであり，或いは全く入破音が見られなく，即ち楓囲，興塔，金衛がそうである。概観すると北から南へは逓減し，ゼロに至る。筆者の調査によると，金山県と隣接している浙江の平湖と嘉善の両県にも入破音が見られない。

「縮気」(入破)の程度をみると，大体強い，やや強い，やや弱いの三種類に分けることができる。強いの種類は趙元任がまとめた中国語方言破裂音の中の第十種類に相当し，即ち?b, ?dである。後の二種類は第九類に相当し，即ち'b, 'dである(『中国語方言の中の破裂音の種類』，歴史語言研究所集刊五本四分，1935年)。強弱が字音の分布における違いは音声上から規則を見出すのが難しい。次は松隠の発音を例に挙げて，声母の入破が強い字とやや強い字を下に示す。

強い：到 祷 島 倒 東 冬 担 胆 丹 単 旦 扮 都 肚 賭

やや強い：多 擺 杯 輩 背 堆 對 悲 扁 匾 端 短 百 柏 伯 迫

発展の傾向をみると，入破音は老派の音声の特徴であり，新派(30歳以下)には全く入破音が見られない。入破音の話者の中でも，4，50才の方は6，70才の方と比べるとずっと少ない。ただ，同年代の中では，農村の住民に見られる入破音は町の住民よりは多い。

要するに，入破音の字音や地域そして年齢層における分布のアンバランスから見れば，一部分の中古時代の幫声母と端声母の字が今日の金山方言に入破音と発音されていることは一種の残留した音声現象であり，迅速に消失していく傾向であろう。

周知のように，我が国境内のチワン語族と東南アジア国家の一部の言語に入破音が存在している。中国語海南，松江，浦東，永康，永嘉方言の入破音についても前後相成って報告されたことがある。上海の郊外県では，本論文で挙げた金山以外に，奉賢，嘉定，上海，川沙，南匯にもこのような残留音(銭乃栄，湯志祥，高鉦夏と筆者最近の調査による)が見られる。上海郊外の入破音は他の方言或いは他の言語の入破音とは性質が同じである。少なくとも金山方言の中の強い入破音は筆者の耳にしたベトナム語，チワン語と浙江南部の中国語方言，海南の中国語方言の入破音とは全く類比できるものである。

㊟(『中国語文』1984年第5期p357～p358より訳出)

中国語に見られる入破音の研究
(A STUDY ON IMPLOSIVE IN CHINESE)

参考訳文Ⅳ㊱:　『浙南和上海方言中的緊喉濁塞音声母?b, ?d初探』

浙江省南部と上海方言に見られる入破音?b, ?dの研究

鄭張尚芳

一般には「緊喉濁塞音(入破音,以下同)」?b, ?dは侗台語特有の音韻であり，中国語海南閩語に存在する?b, ?dは侗台語とは近隣にあるためその影響を受けた結果であると思われてきた。従って現代侗台語の分布状況を根拠に,国外では緊喉濁塞音?b, ?dは東南アジアにしか存在せず，我が国では広西省と海南島にしか存在しないという典型的な見方がある。フランスの言語学者,奥徳里古尓は曾てこう述べた。「一部の音韻は地理的に制限されている。例えば前述の喉頭閉鎖の有声閉鎖音はアジアの東南部:海南,広西,ベトナム,ラオス,カンボジア,タイにしか存在しない」①。

実は浙江省と上海の呉語方言にはこの二つの声母は結構見られる。浙江省南部と上海郊外県の少なくても八県にはこの二つの声母の分布が分かっている。浙江省と上海で合計16県以上見られることは偶発の現象ではないはずである。ただ,各地の?b, ?dの喉頭閉鎖の強弱が異なるだけである。上海のほとんどの方言及び浙江省の永康,景寧などの県では喉頭閉鎖が弱いため，趙元任先生が『現代呉語の研究』(1928)では浦東,松江,永康の緊喉濁塞音をただのb, dとして記述した。しかし,後には『中国方言の中の破裂音の種類』(『史語所集刊』第5本第四分,1935)の中で,この3カ所の方言のb, dはいずれも「同時に声門がやや緊縮する」b, dであると記述している。これが呉語方言の中に緊喉濁塞音が存在する最初の報告である。私が『温州音系』(『中国語文』1964年第一期)の中で曾て温州地区の永嘉,文成と麗水地区の青田などの県に緊喉濁塞音が存在すると指摘したが，ただ,その論文はこの問題を専門に論述するものではないし,温州市内ではこの音韻が存在しないので,詳しくは論じていない。

本稿は私自身及びその他の方の調査にしたがって，この二つの緊喉濁塞音声母が浙江省南部及び上海の呉語方言の中における分布,変化と源流を述べてみる。叙述の便宜のため,強弱両類の緊喉濁塞音(趙元任1928の第九類と第十類)を統一して?b, ?dと表記する。発音の方法と区別は趙元任1928にあるので,無駄な重複を避けることにする。

壹　?b, ?dの分布

私の調査によると,この二つの緊喉濁塞音声母は現在は浙江省の4つの地区に分布していることは既に分かった。最も集中しているのは麗水地区で,縉雲,青田,景寧(今は雲和に属す),慶元4県;その次は温州地区で,永嘉,文成2県,台州地区では仙居県,金華地区では永康県である。これらはほとんどは山岳地区である。先行者及び復旦大学の調査によると,上海では南彙,川沙,奉賢,上海,松江,金山,嘉定などの県及び市街区の老派に分布している。これからの更なる調査につれて,新しい分布区を発見する可能性はある。

浙江と上海のこの二つの緊喉濁塞音はいずれも古音の全清声母(無声無気の破裂音)を表すもの

である。即ち，幇声母は?bで，端声母は?dであり，他の?b, ?dを有しない呉語方言の中のp, tに相当する。浙江各県の?b, ?dは上海よりは完全な形で保たれ，普通幇声母端声母例外なく?b, ?dであり，上海の一部の県のように，老派や一部にしか残っておらず，?b, ?dとp, t共存し，?b, ?dはp, tの異音になっている情況とは違う。?b, ?dの喉頭緊縮は浙江の多くの県は比較的に強いが，上海の各県は強い調音は少ない。

この二つの緊喉濁塞音声母の字が各地とも陰の声調であり，陽の声調のb[bɦ, pɦ], d[dɦ, tɦ]声母と対立をなしている。次は永嘉蓬溪を例に，全清，次清，全濁の三類の声母の声調分布(便宜のため，次のようにそれぞれ単数1, 3, 5, 7で陰の平上去入，偶数の2, 4, 6, 8で陽の平上去入を表す)を比較したい。

古全清	陰声調	?bai^{1}杯	?bu^{5}布	?biŋ^{3}餅	?dai^{5}對	?do^{1}多	?doŋ^{3}懂
古次清	陰声調	phai^{1}坏	phu^{5}舖--路	phiŋ^{3}品	thai^{5}退	tho^{1}	thoŋ^{3}統
古全濁	陽声調	bɦai^{2}賠	bɦu^{6}步	bɦiŋ^{4}並	dɦai^{6}隊	dɦo^{2}	dɦoŋ^{4}動

上のように，?b, ?dは有声の閉鎖音であるが，喉頭緊縮の?により清音の類に帰属し，次清と同じように陰の声調をもち，全濁とは異なる。この点は侗台語の?b, ?dが陰の声調であるのと一致している。

平原や都会に近い所の若い世代は他人に自分の発音がおかしい，田舎っぽいと笑われまいと，?b, ?dをp, tに変える傾向があり，分布の範囲を狭くしつつある。

貳　?b, ?dの音便

永康，縉雲などにおいて，?b, ?d声母は末鼻音の音節には現れない。末鼻音の音節では鼻音声母のm, nに同化されるが，陰の声調のままである(呉語の陰声調の鼻音声母はいずれも喉頭がやや緊縮し，濁流がせず，よって'm, 'nか，?m, ?nと表記してもよい)。縉雲を例に，ɛiŋ, aŋ, omなど今日でいう末鼻音の前には?b, ?dは同じ調音部位の鼻音になる。例えば:

非末鼻音	?bə^{3}保	?bo^{3}飽榜	?ba^{7}百	?də^{1}刀	?diu^{3}闘	?dɛ^{3}短
末鼻音	mɛ̃iŋ^{1}兵氷	mɛ̃iŋ^{3}餅	nɛ̃iŋ釘灯	nom^{1}東冬	nom^{5}凍

更には知声母の字が口語音で端声母のようなものも，nになることがある。例えばnaŋ^{1}砧。

永康は今日の末鼻音の音節にかかわらず，古音の末鼻音の音節で今日に介音(わたり音)のない場合も鼻音化してm, nになる。例えば:

今末鼻音	maŋ^{1}幇	məŋ^{3}本	miŋ^{1}氷兵	naŋ^{1}当	noŋ^{1}東冬	niŋ^{1}釘灯
古末鼻音	ma^{5}扮絆	mai^{5}繃		na^{1}担丹	nai^{3}打

このような閉鎖音鼻音化現象は彼の有名な「鳥」のn化(元は都了切[diao]，端声母，n化は多分言葉の下品さを避けるため)というごく少数の例外を除いて，中国語の方言においてはそうあるものではない。ただし，?b, ?dの鼻音化現象は侗台語のなかではよく見られる。例えば，壮(チワン)語北

方方言の武鳴の?b, ?d, 田東, 平果, 横県などの地ではm, nに鼻音化し, 南方方言の龍州の?b, ?d, 後の多くは邕寧, 扶綏, 隆安, 天等は例外なくm, nになる③。例えば:

	飛	村寨	叶子	鼻子	得	罵
龍州	?bin^{1}	?ba:n^{3}	?baɯ^{1}	?daŋ^{1}	?dai^{3}	?da^{5}
天等	min^{2}	ma:n^{3}	mau^{2}	naŋ^{2}	nai^{3}	na^{5}

西双版納(シーサンパンナ)タイ語のなかの?b, ?dは徳宏のタイ語ではmとlになる④。例えば:

	飛	村寨	叶子	鼻子	得	罵
西タイ語	?bin^{1}	?ba:n^{3}	?bai^{1}	?daŋ^{1}	?dai^{3}	?da^{5}
徳タイ語	men^{6}	ma:n^{3}	maɯ^{6}	laŋ^{6}	lai^{3}	la^{5}

浙江省南部方言とは異なるのは, チワン語の音便は末鼻音にかぎらず, ?b, ?d声母全部転化するのである。このような状況は浙江省?b, ?d分布圏の近隣県にも程度が違うが, 存在している。例えば, 武義語の端声母の字が皆n(古末鼻音)とl(非末鼻音)になっており, 幇声母がmに音便する場合だけ古末鼻音を条件としているが, 非末鼻音の場合はpである。

古末鼻音	mie^{5}変	muo^{3}板	miŋ^{1}氷	məŋ^{3}本	nie^{5}店	nuo^{3}胆	niŋ^{1}釘	nəŋ^{5}頓
非末鼻音	pie^{3}表	puo^{1}波	pia^{5}拜		lie^{5}釣	luo^{3}躲	lia^{5}帯	

これらの現象から見て, 我々は武義の幇, 端声母は元々?b, ?dだったかもしれず, 今日のm化, n化, l化現象は縉雲, 永康など隣県のも?b, ?dからきたかもしれない。

幇, 端声母は古末鼻音が後続するとm, n化するという現象は, 浙江では広く分布している。地域によっては体系的になっている。前述した以外にも, 義烏方言も相当体系的になっている。凡そ古末鼻音の字がm, nに鼻音化し, 介音iがあるとnが口蓋化してɲになる。例えば, それぞれmən^{1}兵, noŋ^{1}東nɛ^{3}打, nɔ^{1}担, 単, ɲiɛ^{5}店, ɲiɛ^{1}癲, のとおりである。一部の地域では話し言葉の中にある程度の存在がみられる。例えば, 金華の東郷では, miŋ^{3}餅, mɛŋ^{5}柄, mɯɤ^{5}半, naŋ^{3}打, nia^{3}点, nɤ^{3}短, であり, 東陽の南郷では, mɛ^{3}柄, mɔ^{3}板, nɛ^{3}打, nɔ^{1}担, である。一番注目したいのは「打」が話し言葉ではn声母である言い方はもっと広い範囲で現れていることである。例えば, [打]はそれぞれ泰順ではnai^{3}, 青田ではnɛ^{3}, 浦江ではnɛ^{3}, 景寧ではnaŋ^{3}, 麗水, 雲和, 松陽, 仙居ではnâ^{3}, 慶元ではnɛ^{3}である。個別に見れば, これらの方言では「打」がn声母であることは不可解の例外であるが, 全体的にみると, これは浙江方言における?b, ?dの鼻音化現象の一部分であることがわかる。方言のこうした音声の現象は往々にして個別に発生するのではなく, そして, 一部の方言にある僅かな例外のような現象は, その近隣の地域に集中して体系的に現れて, その規則性を示しているのである。「打」のn化現象はその好例である。

なぜ我々は幇, 端声母のm, n化は緊喉濁塞音?b, ?dと関係があって, 逆に一般の無声の閉鎖音p, tとは関係がないと認めるのか, これには3つの理由がある。第一に, 音声の属性や特徴から見て, 陰

声調喉頭閉鎖のm, nは?b, ?dとは多くの共通性があるからである。同じく有声音であり，喉頭閉鎖の性質もあるため，転化しやすいが，一般の無声の閉鎖音p, tとは相違が大きい。第二は，もし無声の閉鎖音p, tが後続する末鼻音に鼻音化されるとしたら，同じ性質の無声の閉鎖音kも同化されてŋになるはずであるが，前述のとおり，ŋ化現象は見られていない。第三に，m化n化現象は緊喉濁塞音声母?b, ?dの現れている地域とほぼ一致している。ここで「打」の話し言葉の声母を基準として，ポイントを線で連結して浙江の端声母のn化現象分布図を描き，更に「対」の声母を基準として，ポイントを線で連結して浙江の端声母が緊喉濁塞音?dと読む分布図を描いてみると(付図をご参照)，この2つの分布図が交差する相似形になっており，後者が前者の東端に交差していることから，両者の関連性が明らかである。

したがって，もともと緊喉濁塞音?b, ?dの浙江における分布は今よりもっと広い分布(少なくともn化圏を含む)があったと推測できる。

上海の緊喉濁塞音の分布圏においては，鼻音化現象の報告が今まではない。しかし，浙江と上海の呉方言のこの2つの喉頭化声母の分布圏の間では関連性がないとも考えにくいし，それぞれ孤立に成り立って来た訳でもないはずである。これは将来の方言調査研究が進んで両者の関連性のある事実がわかるだろう。今は特筆したいのは蘇州と浙江南部とも一部の端声母の虚字(助詞など)がl化する現象である。

ここで早期の呉語記録の中の「搭(在)覷」と「得」(例えば，明の馮夢龍の『山歌』巻八の『湯婆子竹夫人相罵』:「両個儕跪来搭」，巻一『孕』「生牛皮做子汗巾無人拭得破」)は，今日は多くの呉語の中でも使用されているが，往々にしてl化になっている。武義方言では，規則では非末鼻音の端声母はlとなるため，「坐搭」はzuo^{4}•laといい，「駄得動」はduo^{2}•læ doŋ^{4}というのは正常である。しかし，浙江南部では多く端声母がlといわない方言の中でも，この2字が話し言葉ではlという。例えば，温嶺では，「坐搭」はzo^{2}•lɤ?^{7}，「駄得動」はdu^{2}lɤ?^{7}doŋ^{2}という。温州では，「坐搭」はzo^{4}•laといい，「背得動」はpai^{1}•le doŋ^{4}という。そして上海も同じように，「坐搭」はzu^{6}la?といい，「駄得動」はdu^{6}lə? doŋ^{6}という。軽声短調のは元の声調分類は弁別できないが，温嶺のは明らかに陰入を保ち，清音であることを表明している。そして上海の「得」はtə?/lə?が自由異音であり，温州の「得」は•te/•leの自由異音があるだけでなく，「搭」も•ta/•laの自由異音がある。例えば，「坐搭講/囮(藏放)搭/囮同学搭/你搭娘舅(你家舅舅)」などの例の中の「搭」は，上海ではただla?(辣)としかいわないが，温州ではtaともlaともいう。これらはlaがta(搭)からきたことが証明できる。そして，『山歌』の中の「赶搭出去」(巻八『睏弗着』)，「踱搭来」(巻一『娘打』)のような格式の中の「搭」は，温州では現在は一般に•laしかなくなった。ただし，19世紀の宣教師が書いた温州語ローマ字の記録ではまだdaであった。温州などのt/d/lの自由変異は，もしかしてもっと広い範囲の?d分布圏の背景のもとで発生したかもしれない。即ち，これらの「搭」はもともとすべて?da?といっていた可能性があるのである。

三　?b, ?dの歴史背景

浙江省は広西省とは距離的に遠く，海南島のように広西省の隣にないのであるが，?b, ?dの音声現象は海南島の閩語，広西，雲南，貴州の侗台語とは非常に似ている。これについてはどう説明しょうか。両者の間には何か歴史的な関係があるのではないか。よって，自然にこの2地域と古代百越との関係の歴史背景に着目することになる。

広大な北方方言地域以外に，その他の主要な中国語の方言はほとんど古代の百越の地において発展して形成してきており，それぞれ民族の融合の歴史背景があったのである。中でも注目すべきのは浙江一帯と海南，広西一帯の歴史上いわゆる甌越人といわれた地域である。あるいはそれぞれ浙江一帯は東越，東甌といい，海南，広西，雲南，貴州からベトナムまでは西越，西甌といわれた地域である。例えば②，

1.『逸周書・王会解』:「欧(王本作甌)人蟬蛇」。晋孔晁注:「東越欧(甌)人也」。

2.『通典・州郡十二』:「縉雲郡:處州，春秋戦国時並属越，秦漢属会稽郡，亦甌越之地。晋分置永嘉郡。」巻一八二

3.『山海経・海内南経』:「甌居海中」。晋郭璞注:「今臨海永寧県即東甌，在岐海中也，音嘔。」(注:永寧は即ち温州の古名である)

4.『史記・東越列傳』:「乃立揺為東海王，都東甌，世俗号為東甌王。」

5.『方言』巻六:「厉，卯，為也。甌越曰卯，呉曰厉」。

以上は東海の甌越，甌人のことを指す。

6.『戦国策・趙策二・武霊王平昼閑居』:「被髪文身，錯臂左衽，甌越之民也。」『史記・趙世家』「被」作「翦」，其余文同。『索隠』引劉氏雲:「今珠崖儋耳謂之甌人，是有甌越。」『正義』:「属南越，故言甌越也。『輿地志』雲:「交阯，周時為駱越，秦時曰西越，文身断髪避龍。」則西甌駱又在蕃吾之西。」

7.『漢書・南粤傳』:「蛮夷中西有西甌，其衆半羸。」

8.『太平御覧・州郡部十八・嶺南道』引『(梁氏)十道志』:「潘州南潘郡，古甌駱越地，秦平百越為桂林郡地，漢為合浦県地，属合浦郡」。巻一七二

9.『路史・国名記丙・甌越』引『梁四公記』:「合浦洛黎県，甌越も。」

10.『通典・州郡十四』:「懐澤郡:貴州(今の理鬱平県)，古西甌駱越之地」。巻一八四

11.『方言』巻一:「(允，信也，)西甌毒屋黄石野之間曰穆。」郭璞注:「西甌，駱越別種也，音嘔。」

以上は南海の甌越，甌人のことを指す。

上述の史料は周の時代以後，この2つの地域の異なる越人は長期にわたり混ざって甌と称していた。一部の史料では区別をつけようとしたが，はっきりとは区別できなかった。例えば，書き方のうえでは，次のようなものがある。

12.『逸周書・王会解』引伊尹四方献令,「(正東)越漚鬋髪文身」;「(正南)甌鄧桂国」(太平御覧七九一引作「欧隠」)。

13.『路史・国名記丁・越漚』:「或雲即甌人,漚,欧,甌,区通」。

したがって,「漚」或いは「欧,甌」と書いても区別はなく,例1のように,周書は同じ文章の中でも「東越欧(甌)人」は「欧,甌」にしている。

『史記』『漢書』の中では又南海の甌を「甌駱」とも呼んでいるが,史記集解や索隠ではともに徐広説を引用し,駱は東甌王の姓であると考え,文選注も甌駱は東海の甌であると考えている。

14.『史記・東越列傳』:「(王)姓駹氏」『索隠』:「徐広雲一作駱,是。上雲欧駱。」

15.『文選・張景陽・雑詩十首』:「昔我資章甫,聊以適諸越。行行入幽荒,欧(五臣本作甌)駱从祝髪。」李善注:「『史記』曰:東海王摇者其先句践之后也,姓駹氏。摇率越人佐漢,漢立摇為東海王,都東甌,世俗号為東甌王,徐広曰,駹一作駱。」李周翰注:「甌,越名;駱,越王姓也」。巻二十九

混同しやすいため東,西甌と分別して称した。『漢書・南粤傳』顔師古注では,「西甌即ち駱越であり,西というのは東甌と区別するためである」といっている。『太平御覧』巻一七一の温州の条では「永嘉は東甌であり,鬱林は西越である」と『郡国志』を引用し,台州の条では「今は臨海の永寧県は即ち東甌の故地であり,南海では鬱林郡は西甌である」と『山海経』の郭璞の注を引用している。

しかし,この2つの甌は実際区別しにくい。彼らは種族は同じく,言い方も同じである(皆越人であり,皆駱と称し,甌と呼んでいる一嘔は同音)。風俗も同じく,信仰も同じである(断髪文身,龍を信仰する)。生活習慣も同じである(皆泳げるし,蛇を食する)。例の6(注:原文では7)は『戦国策・趙策』と『史記・趙世家』の鬋髪文身の「甌越の民」,そして,『索隠』と『正義』はそれぞれ他の書籍を引用して西甌駱越であると力説しているが,しかし,原文の「甌越の民」は「大呉の国」とは対等であるので,どうして同じような断髪文身の東海の甌を指していないと言えるであろう。このような状況を見ると,われわれはこの2つの地域の古代居住者は皆越民族でけでなく,更に親しい関係にあるかもしれないし,ひょっとすると同一種族の近縁分岐であり,海上に散在し,散らばって段々遠くなったかもしれない。もしそうであれば,かれらが近い言葉を話し,共通の音声特徴をもっているのも不思議ではなくなる。今は浙江一帯は中国語を話さない少数民族③はすでにいなくなったが,しかし,当地の漢民族の中では相当比例の甌越人の子孫がいるはずである(東甌国が江淮へ移住したことがあるが,それは主に王廷に対して言っているので,越民は皆ついて行ったわけではない。大勢の「山越」は故郷に残っており,歴史の記載も絶えない)。考えられるのは,歴史上漢民族が東越地区を開発したとき,甌越人は漢民族の先進的な文化の同化を受けて漢民族と融合し,彼らが漢民族の言葉を受け入れると同時に,一部の甌越語特有の音声習慣を頑なに保存してきており,当地の中国語の方言に甌越語の特徴を見せている(浙江南部方言音声のその他の面及び語彙,文法の面においても同様に甌越語の基礎が残っているが,ここでは割愛する)。

一般に現在の侗台語各族と百越とは密接な淵源関係にあるといわれており，これらの言語は現在古代の西甌地区では強大な?b,?d分布圏を構成しているが，甌越基礎をもつ中国語方言は今日東甌地区でも?b,?d分布圏を構成している。以上の事実に従い，われわれは二者が共通の歴史背景をもっていると考える。上海周辺の?b,?d圏の形成は東甌地区の延伸か（越が呉を消滅し，東甌は江淮へ移住……）それとも古代の呉語と越語はもともと近いか（『方言』巻七は「甌呉の外鄙」といい，巻一は「荊呉揚甌之郊」……）については，更なる研究が必要である。

付記：本稿侗台語資料は民族出版社1980年出版の韋慶穩・覃国生著『壮語簡志』，喩翠容・羅美珍著『泰語簡志』及び『民族語文』1980年第二期張均如著『原始台語声母類別探索』に従った。温嶺語は『杭州大学学報』第三期杭州大学方言研究室『温嶺方言』に従い，武義語は傅国通氏の材料に従った。

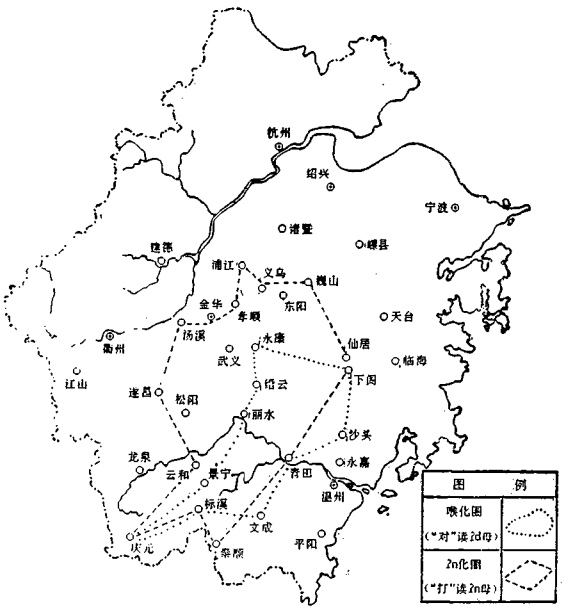
㊟『呉語論丛』(1988,9,復旦大学中国語言文学研究所呉語研究室編，上海教育出版社)p232～p237より訳出。

①『歴史和地理怎様可以解釈某些語音上的発展』，『語言研究』第四期81頁，1959を参照。

②1から15までの史料は便宜のため，原文のまま引用した。なお，原文は6が欠けて16とあるが，1から15に統一した。

③原文の注。浙江南部の畲族は客家語を話すが，かれらは明，清の時代に福建から移住してきたので，先住民ではない。

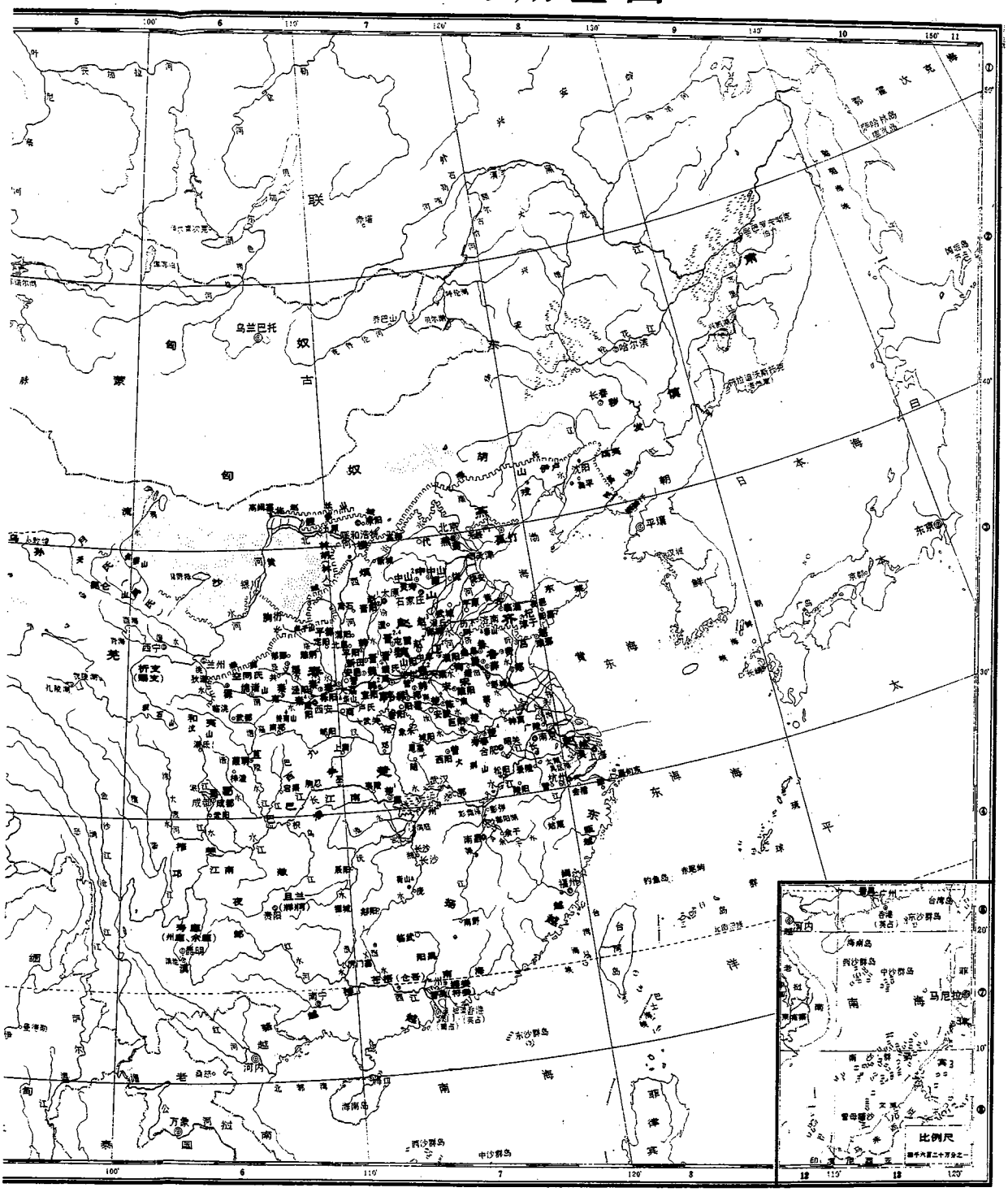
（付図）浙江南部端声母喉頭化及び?n化現象分布図



付録二：中国語入破音をみる歴史地図

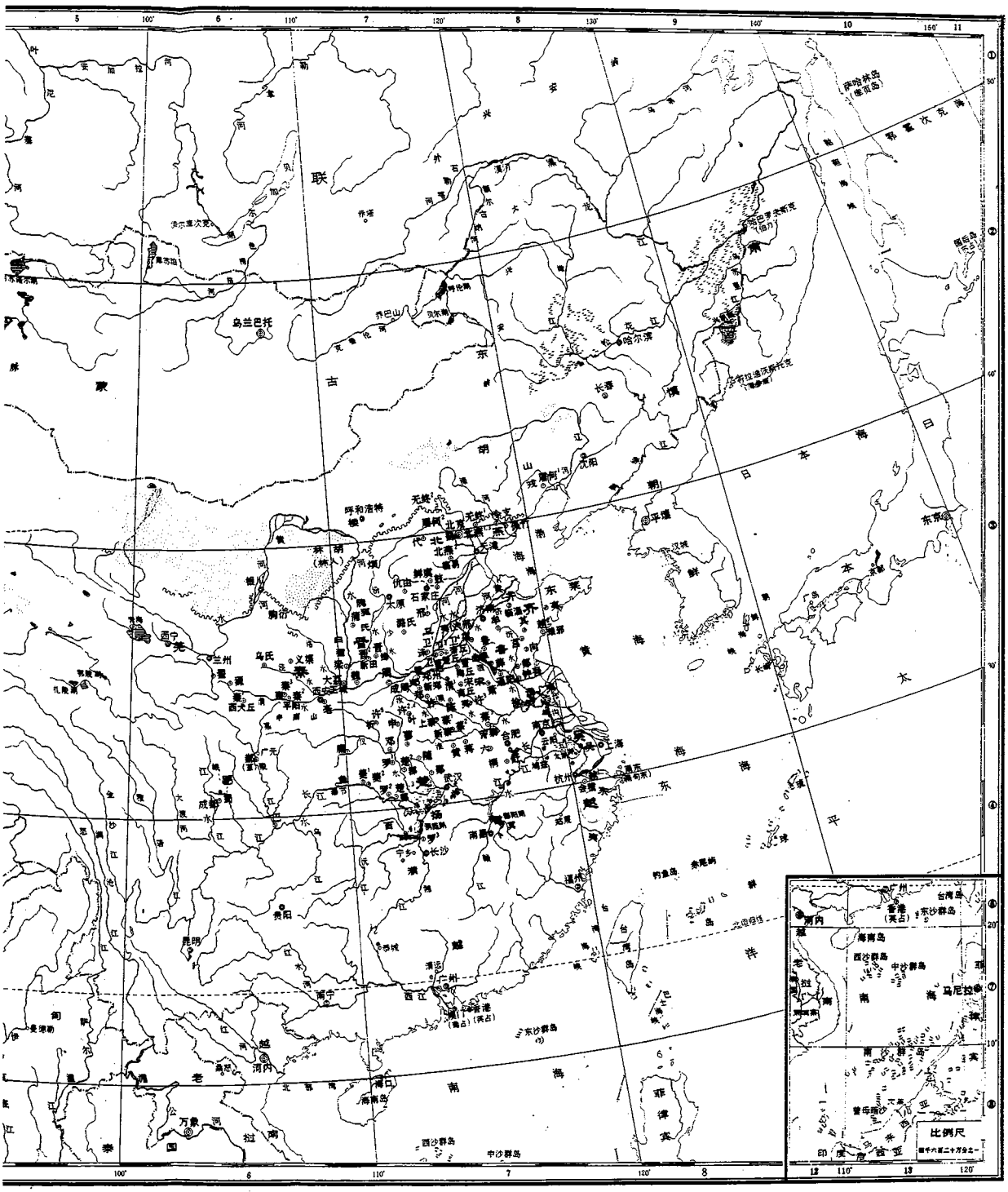
I. 商時期全図　『中国歴史地圖集 第一冊』より

战国时期全图



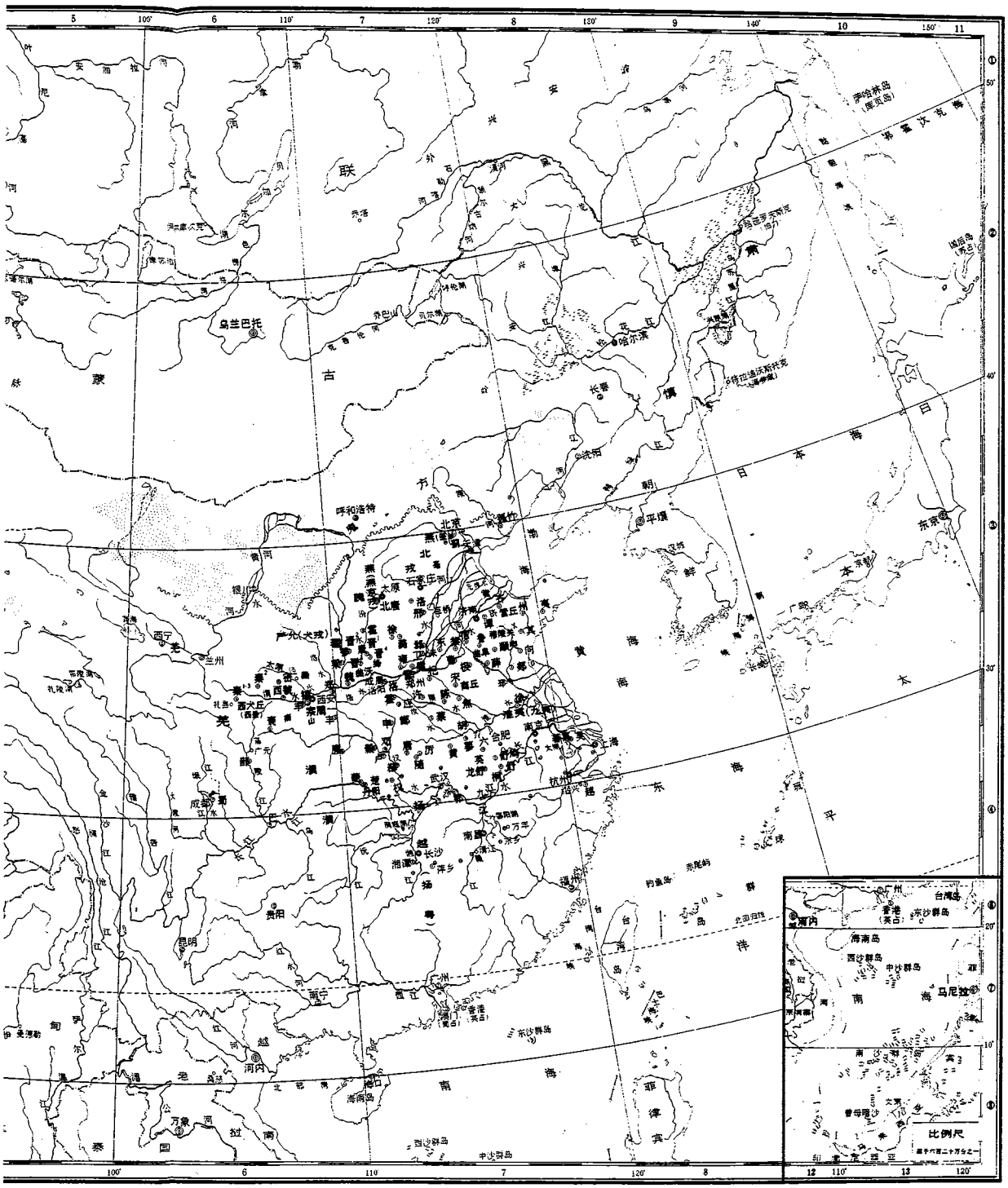
Ⅱ. 西周時期全図　『中国歷史地圖集 第一冊』より

春秋时期全图



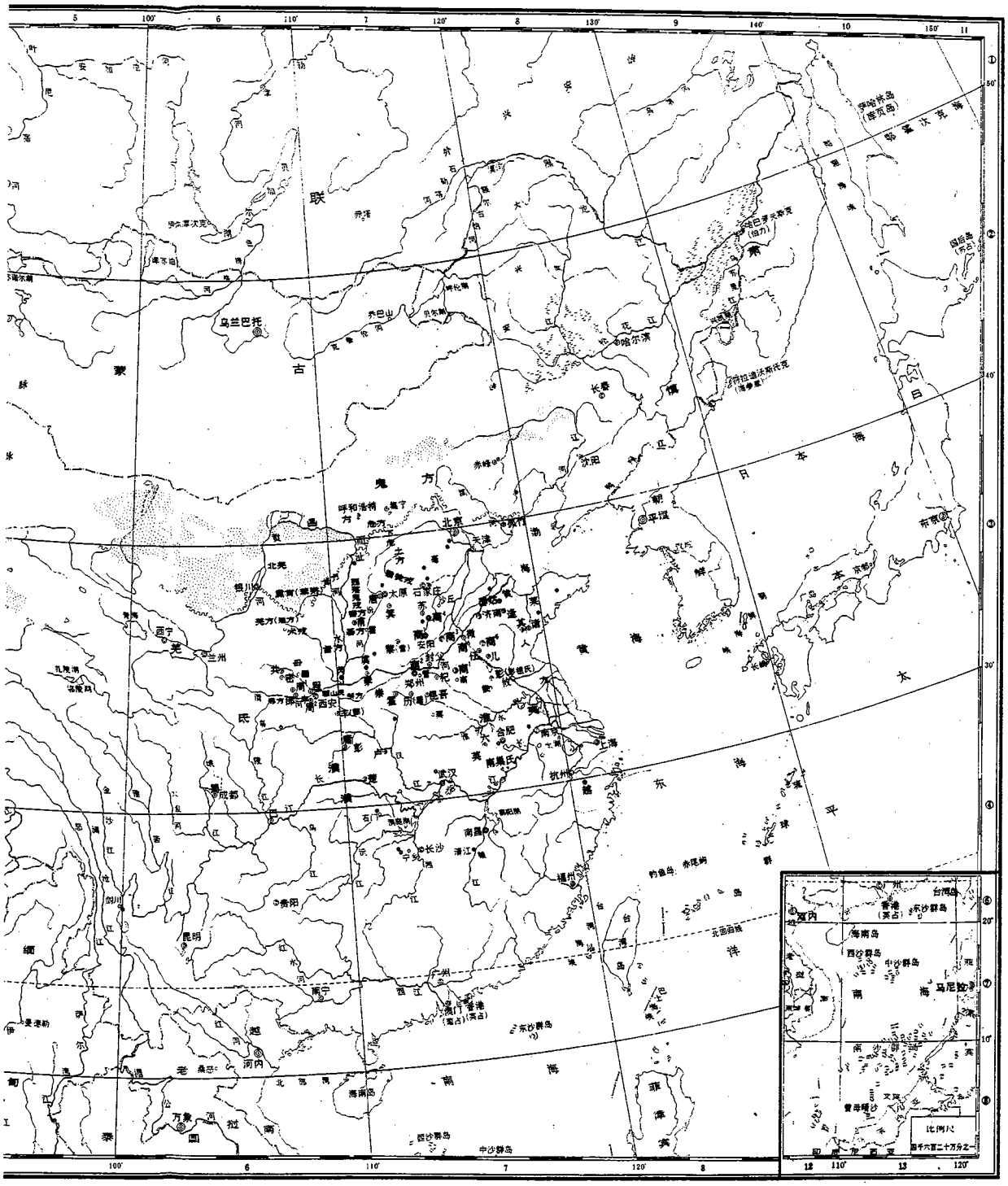
Ⅲ. 春秋時期全図　『中国歴史地圖集 第一冊』より

西周时期全图



Ⅳ. 戦国時期全図 『中国歴史地圖集 第一冊』より

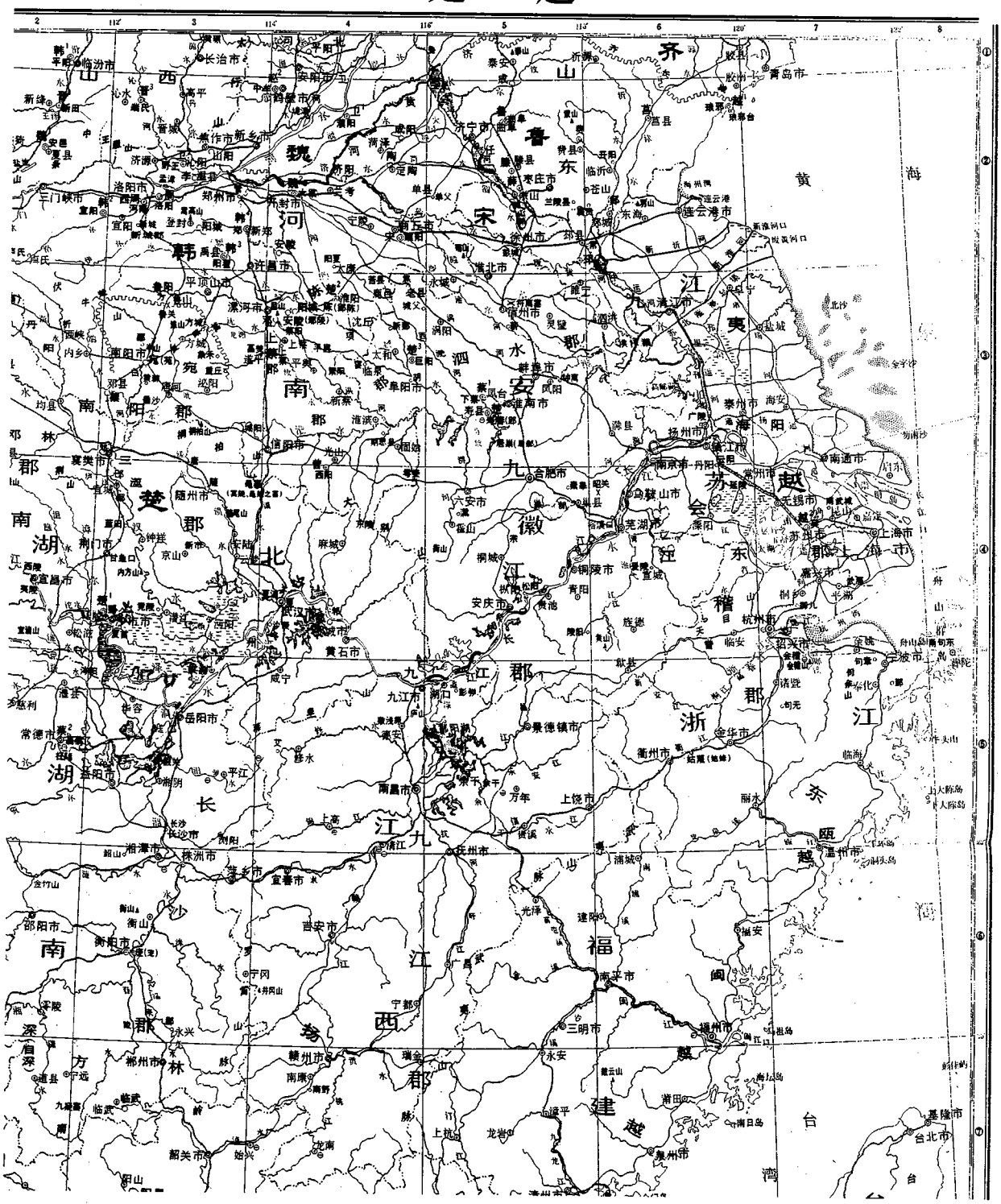
商时期全图



Ⅴ. 戦国時期楚越図

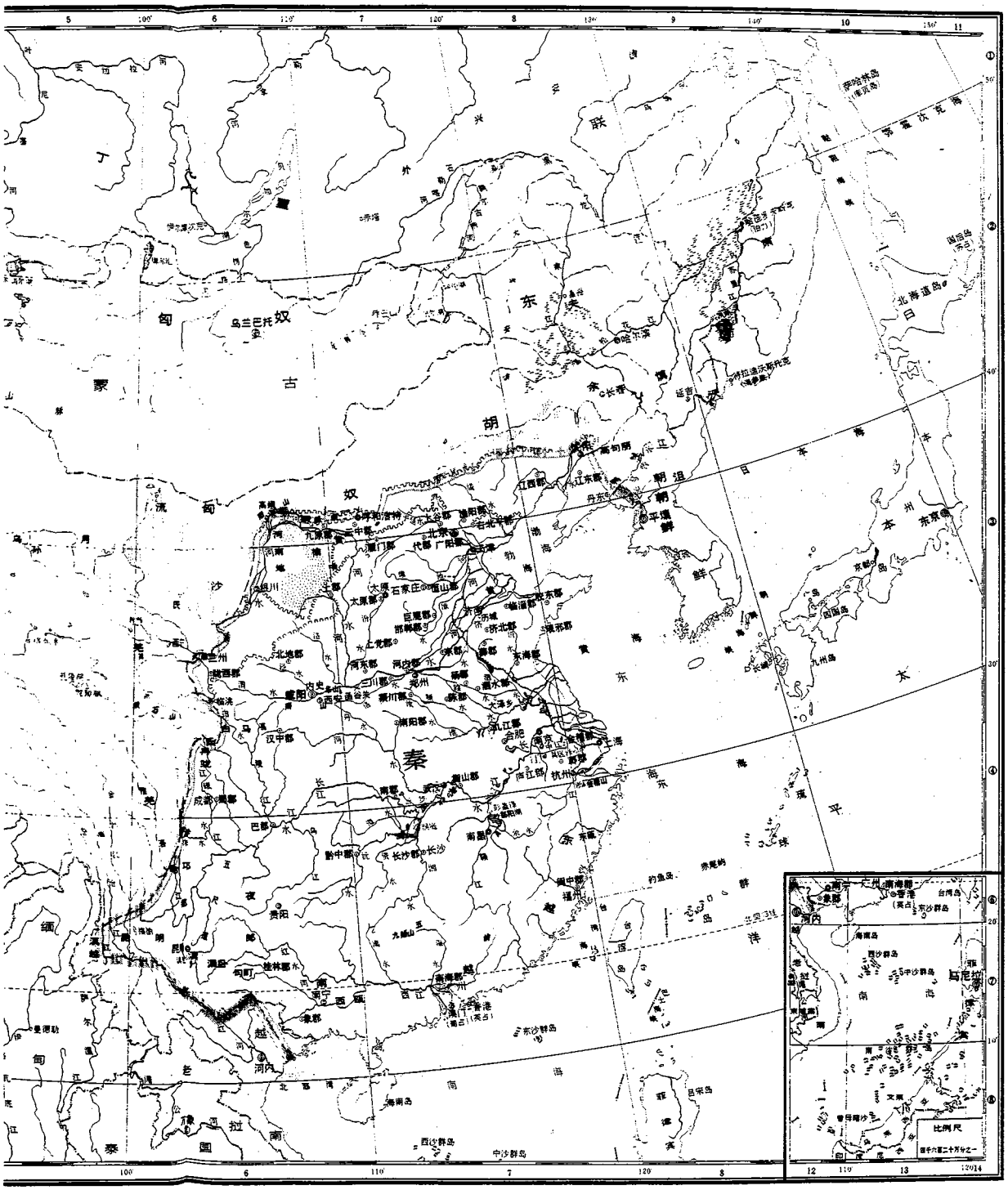
『中国歴史地圖集 第一冊

楚　越



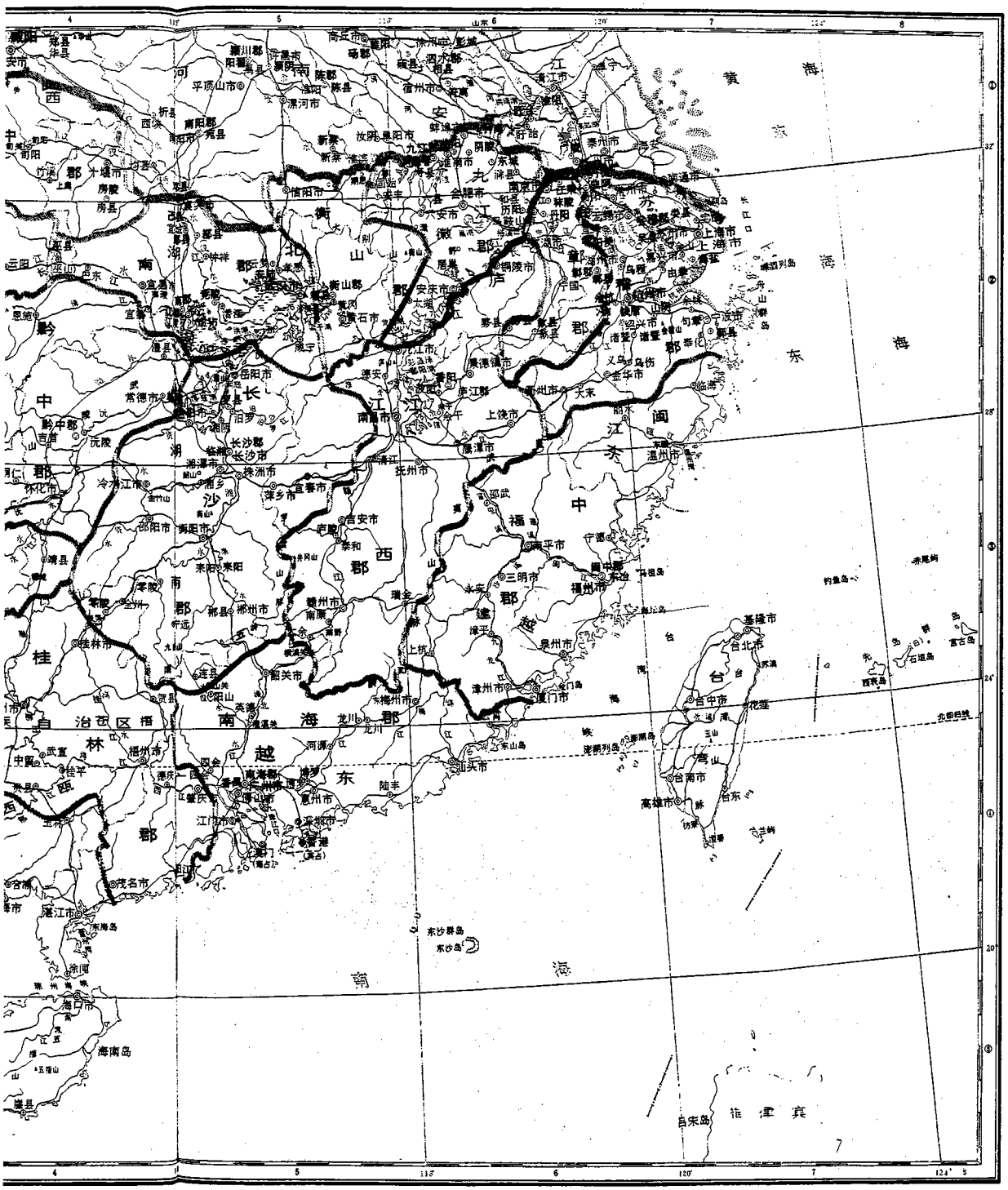
Ⅵ. 秦時期全図　『中国歷史地圖集 第二冊』より

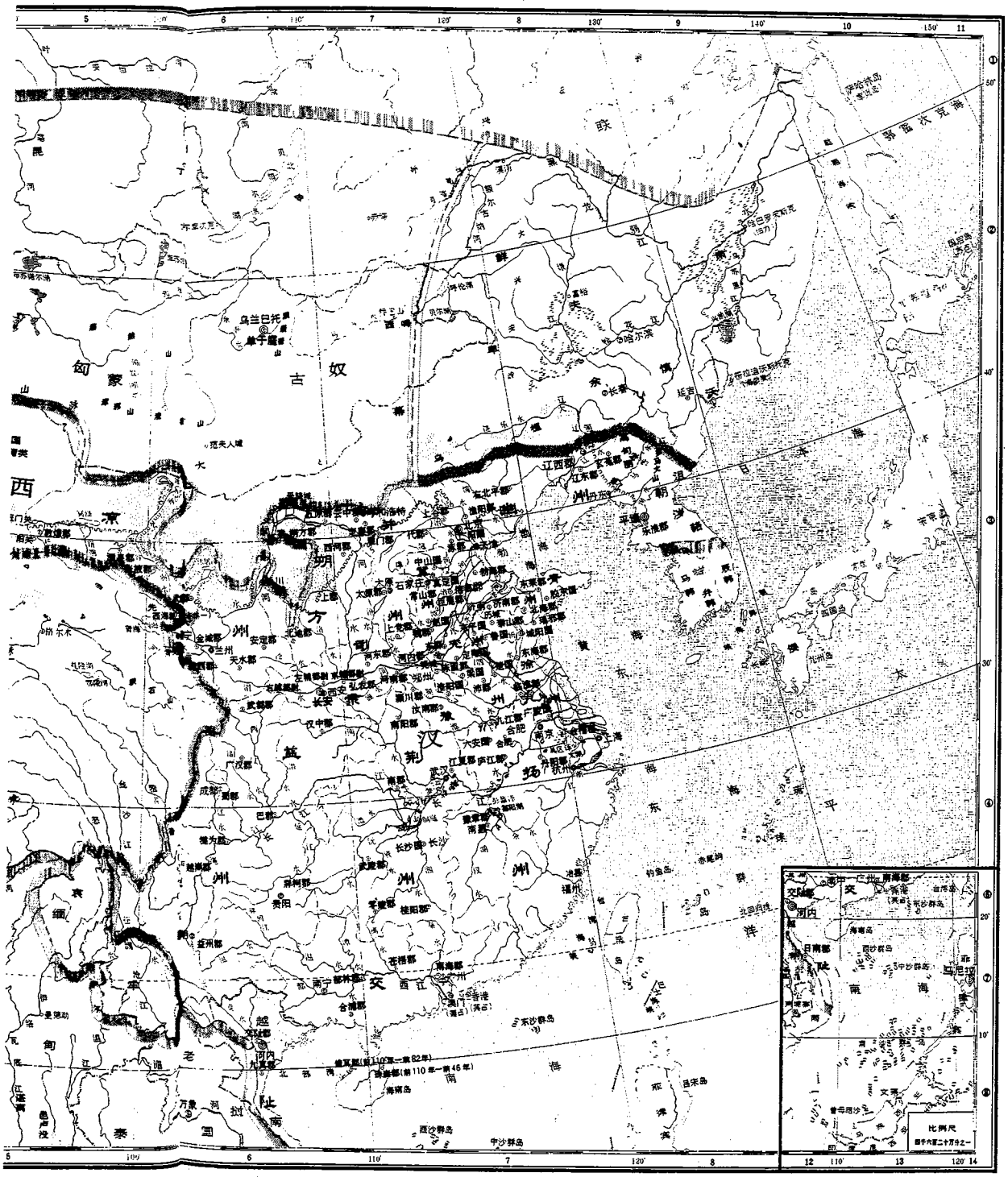
秦时期全图



Ⅶ. 秦時期淮漢以南諸郡図　『中国歴史地圖集 第二冊』より

淮 汉 以 南 诸 郡



Ⅶ. 西漢時期全図　『中国歴史地圖集 第二冊』より

西汉时期全图